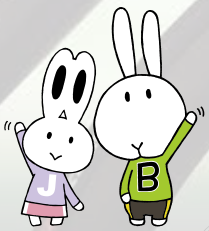
さあ、いこうか。
鍛え上げた身体で、いざアスリートの頂点へ

第61回 全日本プロ選手権自転車競技大会

2014年
5月19日(月)

開門時間 8:30
競技開始時間 9:30



取手けいりん
http://www.toride-keirin.com
住所: 〒302-0023 茨城県取手市白山6-2-8 TEL: 0297-74-1111

プログラム

ALL JAPAN JPCA

主な出場選手
金子貴志、浅井康太、深谷知広、芦澤大輔ほか

【主催】公益財団法人日本自転車競技連盟、日本プロフェッショナルサイクリスト協会
【主管】一般社団法人日本競輪選手会
【後援団体】経済産業省、公益財団法人JKA、公益社団法人全国競輪施行者協議会、一般財団法人全国競輪選手共済会、中日新聞、東京新聞、中日スポーツ、東京中日スポーツ、茨城県

日本が生んだ世界のスポーツ KEIRIN

この大会の開催にあたっては競輪の補助を受けています。

Otsuka 大塚製薬

BODY PROTECT

Amino-Value

OSAKA MARATHON 2011

アミノバリューは大阪マラソン2011のオフィシャルドリンクです。

第61回全日本プロ選手権自転車競技大会

プログラム

ご挨拶……2
後援・協賛団体一覧表……4
大会役員……5
レースの見方……6
全日本プロ選手権自転車競技大会沿革……8
大会歴年優勝者記録……29
記録一覧……40
競技日程……44
トラック競技……45
BMX 競技……62
賞品目録……63
寄贈社御芳名……65

主催：公益財団法人 日本自転車競技連盟・日本プロフェッショナルサイクリスト協会
主管：一般社団法人 日本競輪選手会

ご挨拶

公益財団法人　日本自転車競技連盟

会長　**橋　本　聖　子**

平素より、自転車競技の普及振興活動にご支援、ご協力を賜り心より御礼申し上げます。

さて「第61回全日本プロ選手権自転車競技大会」トラック競技を茨城県取手競輪場で開催できることは、茨城県、取手市をはじめとする関係各位のご尽力の賜と厚くお礼申し上げます。

また、ここ取手競輪場は、2011年東日本大震災の影響により被災し、1年７か月を経て２０１２年10月に改修されました。続いて２０１３年９月にリニューアルも行われ、更に充実した施設となり、プロアマを問わず多くの選手が日々練習に励んでおられると伺っております。

本大会は昭和27年に第1回大会を後楽園競輪場で開催して以来60年余、自転車競技の普及振興及び競輪の健全なる発展に寄与することを目的として実施して参りました。全プロ大会は地区予選を勝ち抜かれた一流選手が全国から集結し、その年のプロ選手の種目別選手権者を決定する意義ある大会です。

選手の皆様におかれましては、日頃より研鑽された技量を遺憾なく発揮されますことを期待しております。

今回ご来場されたファンの皆様には、五輪種目でもある自転車競技を楽しく観覧して頂けたら嬉しく思います。

最後になりましたが、本大会にご後援、ご協賛、ご協力いただきました関係諸団体のみなさまへ心より感謝し、御礼申し上げます。

ご挨拶

日本プロフェッショナルサイクリスト協会

会 長　佐 久 間 重 光

今般、第61回全日本プロ選手権自転車競技大会トラック競技を、日本自転車競技連盟及び日本プロフェッショナルサイクリスト協会の共催により開催できますことは、茨城県をはじめとする関係各位のご尽力・ご協力の賜と衷心より御礼申し上げます。

本大会は我が国最高のプロ自転車競技大会として昭和27年に第１回大会を後楽園競輪場で開催して以来、自転車競技の普及振興及び競輪の健全なる発展に寄与することを目的として実施して参りました。全プロ大会は全国からプロ競技者が集結し、各年の種目別選手権者を決定する重要な大会であり、国内外に向けて自己の力をアピールする絶好の場です。近年では自転車競技愛好者に「全プロ」の愛称で親しまれており、おかげさまで自転車競技の一大イベントとして定着致しました。

今年は40年振り２回目となる取手競輪場での開催となります。この地で再びファンの皆様に自転車競技の醍醐味を披露できることは、主催者として喜ばしい限りです。

今年の全プロ大会も競輪を舞台に活躍する選手が集結しております。また、５月にデビューしたばかりの女子選手を含むエキシビションレースもお楽しみいただけます。

ご来場の皆様には、自転車競技の魅力を感じていただくだけでなく、各イベントを通じて大会をご堪能いただけるようスタッフ一同、一丸となって開催にあたる所存です。

最後に、参加選手諸君におかれましては、本大会の開催趣旨を十分に踏まえ、日頃研鑽した技量を遺憾なく発揮し、正々堂々敢闘することを期待して、ここに謹んでご挨拶申し上げます。

後援・協賛団体

■後援団体

経済産業省
（公財）ＪＫＡ
（公社）全国競輪施行者協議会
（一財）全国競輪選手共済会
中日新聞
東京新聞
中日スポーツ
東京中日スポーツ
茨城県

■協賛団体

函館市
いわき市
弥彦村
宇都宮市
前橋市
埼玉県
立川市
東京都十一市競輪事業組合
伊東市
名古屋競輪組合
福井市
岸和田市
防府市
高松市
北九州市
（株）京王閣
松戸公産（株）
三生興産（株）
（株）桝田酒造店
南関東競輪連絡協議会
日本名輪会
（一財）自転車産業振興協会
（一財）日本自転車普及協会
（一財）日本車両検査協会
（一社）自転車協会
（公財）車両競技公益資金記念財団
日本自転車軽自動車商協同組合連合会
（株）日刊プロスポーツ新聞社

大会役員

■ 大会会長

佐久間重光

■ 大会副会長

大島　研一　　石黒　克巳　　上田　清司　　橋本　　昌　　坂巻　正巳

■ 顧　問

福島　　厚　　森　　清春　　斧　　隆夫　　坂井田米治　　松倉　信裕　　安田　光義
平柳　　豊　　佐久間信司郎　　小出　宣昭

■ 参　与

田中　八郎　　伊東　　哲　　飯田　太文　　榎　　正人　　岡田　行雄　　黒川　　剛
佐々木昭彦　　寒川　英樹　　塚本　芳大　　中田　将次　　早坂　和広　　松村　正之
三宅秀一郎　　伊藤　憲二　　石島　　茂

（順不同）

レースの見方

■ スプリント

この競技は通常２～４名の競技者によって行われ、トラックを２周ないし３周します。競技者はスタートしてから最後の200m線に到着するまでは逆方向に走ること、30秒を越えるスタンドスティル、極端な進路妨害以外には、どんな走り方も許されます。最後の200m線を通過した後は斜行したりすることは許されません。最後の200mのタイムは参考として記録されますが、先にゴールした者が勝ちとなります。この競技では、相手競技者より前に出ることが、後方から自己の動作を常に監視され、自己の力を利用されやすいという不利があるため、最後の200m線近くまではお互いに牽制しあい、変化のある作戦が展開されます。

したがって、ただ単に優れたスピードが必要であるだけでなく、この競技には頭脳的な作戦と高度な走行技術を必要とします。

■ 4km個人パーシュート

２人の競技者がそれぞれ反対の位置（ホームストレッチ、バックストレッチ）よりスタートし、お互いに追い抜こうとするのがこの競技です。相手を追い抜くか、相手より先にゴールした者が勝者となりますが、本大会では後者のルールのみが適用されます。力の配分が非常に難しく、最初に相手を引き離すか、最後の追込みで勝利を掴むか、各競技者は自己の特性に応じて作戦を立てます。

■ 1kmタイムトライアル

この競技は一人で１kmをいかに速く走り切るかを競うもので、自転車競技の中では最も基本的な競技といえます。この競技は、だいたい最初の半周の時間が重要となりますので、その半周の時間を計って競技者はこのくらいの記録だろうと予測してみるのも面白いところです。

■ 4kmチームパーシュート

この競走は、１チーム４名をもって編成され、ホームストレッチとバックストレッチからそれぞれ発走し、その４名のチームワークでトップを交替しながら相手チームを追い抜こうとする競走です。

相手チームを追い抜くか、先にゴールしたチームが勝者となりますが、本大会では後者のルールのみが適用されます。なお、タイムは各チームの３番目の競技者の入線により決定されます。４名の競技者は、自転車競技最大の敵、風圧を避けるため、傾斜を用いて先頭を交替しながらスピードを維持します。時速50～60kmで走行する４名の競技者のスピード感、急斜面を用いた先頭選手のスリリングな交替劇、足並揃ったペダリング、ゴール直前の秒を競うフィニッシュは観る者を興奮させます。

■ エリミネイションレース

このレースは、１周回ないし２周回ごとにフィニッシュラインを最後に通過した競技者がエリミネイト（除外）され、最後まで残った競技者が勝者となる競技です。競技者は毎周回エリミネイトされないよう、脚質に応じた駆け引きを見せます。中長距離型の脚質と同時にスプリント能力も試されるスリリングな展開をお楽しみください。

■ ケイリン

日本で生まれ発展してきた「競輪」が、1980年の世界選手権フランス大会にて正式種目として採用され、それ以来国際大会等で「ケイリン」として人気を集めている種目です。また、オリンピックにおいてはシドニー大会にて初めて採用され、北京オリンピックでは永井清史が念願の銅メダルを獲得した種目でもあります。

レースは横一列に並んだ競技者が自力発走でスタートし、ペースメーカーは専門の先頭誘導員が小型オートバイを使用して務めます。自転車を使用している一般のケイリンと違うのはここだけです。

距離は、2000mで行われ、誘導バイクはスタート時速30km/h、急加速することなく徐々に50km/hまで加速し、ラスト600 ～ 700mまでの間に徐々にペースアップして退避します。この間に競技者は自分の有利な位置を確保し誘導バイク退避後スプリントレースが展開され、時にはゴールラインを競技者が一団となって駆け抜けることもあり、自転車競走の醍醐味を十分満喫できるものと思います。

■ チームスプリント

この競技は、1チーム３名をもって編成されたチームが、ホームストレッチとバックストレッチからそれぞれ自力発走でスタートし、トラックを３周して行われます。１周ごとに先頭を走っている競技者が外側に退避していき、３番目の競技者が早くゴールしたチームが勝ちとなります。

この種目は、1995年の世界選手権コロンビア大会より正式種目として採用されており、2004年に開催されたアテネオリンピックでは、日本自転車競技初の銀メダルをもたらした種目でもあります。

■ ＢＭＸ

ＢＭＸ（バイシクル・モトクロス）は、1970年初頭にアメリカ・カリフォルニアで子ども達の遊びから発展して競技になりました。

レースは、最大８名がゲートからスタートして300 ～ 400mのトラックを走行し順位を競う単純なもので、競技時間は１分程度ですが、トラックには最低３つのコーナー（バーム）とジャンプなどが設置されており、テクニックが要求される部分も多く、その派手なアクションが見どころとなっています。

なお、この競技は2008年の北京オリンピックより正式種目として採用されています。

全日本プロ選手権自転車競技大会沿革

■第1回大会は、社団法人日本競輪選手会の前身、日本プロサイクリスト連合の主催で昭和27年2月16日から18日までの3日間後楽園競輪場で開催した。しかし3日目の18日は降雪のため止むなく第2次予選で中止されるに至ったが、わが国のプロ自転車競技の神髄を整った形で披瀝したものとしてファンから多大の関心を浴びた

■第2回大会は、昭和29年3月26日から28日まで宮城県仙台グラウンドで行われた。この大会は法人結成後の強力なる組織体制で、プロ自転車競技の宣伝啓蒙に大成果をあげ今日の隆盛を築く礎となった。

■第1回プロ選手権ロードレース大会を翌年の昭和30年4月30日、小雨降るなかを湘南周回200kmのコースで決行した。

■昭和31年6月19日、第3回ピスト選手権を静岡競輪場で開催した。この大会は国際自転車連盟（UCI）に加盟する下準備として個人優勝者は加盟の暁には世界選手権大会に派遣する国内選抜を兼ねただけに大盛況で数々の好記録を生んだ。1,000m独走時間競走で竹野暢勇選手（栃木）が1分12秒2の大会新記録を樹立したほか、各競技に著しい技術の伸長をみた。そしてこれらの記録及び日本プロ自転車競技が、英国の専門誌サイクリングで掲載報道され、世界各国に多大な波紋を投じた。

■国際的な機運が昂まりつつある中、昭和32年第4回大会を大阪岸和田競輪場で開催した。また、これに前後して欧州の先進国であるフランスから6名の選手が来日し、全国各地対抗あるいは交歓競技会を開催して人気を呼んだ。ここに至って自転車競技はようやく純粋プロ競技として広く一般大衆に根を下ろしはじめた。

■第5回大会は競輪発祥の地として由緒深き小倉競輪場で昭和33年11月16日に実施した。記録的には大会初の500m走路であったためあまり芳しくなかった。

■第6回大会は昭和34年6月20日、21日の2日間、名古屋競輪場で開催した。記録は前回より素晴らしい飛躍をみせ、又大会運営も軌道にのり大成功裡に終了した。

■第7回大会は原爆の都市として各国から注目を浴び、その後めざましい復興をとげた平和都市広島にて昭和35年5月28，29日の2日間開催された。時悪く、チリ台風の影響のため東北方面に被害があり多少の欠場者を生じたが参加選手の意気はすさまじく、記録的にも技術的にも大いなる進歩のあとがみられた。

■第8回大会においては、丁度公営競技全般にわたる改廃問題について検討が加えられる重大時

期に直面し、慎重なる検討の結果、第1回の開催地東京において挙行した。昭和36年6月10日、11日の2日間にわたる本大会では特に新進気鋭の進出がめざましかった。

■第9回大会は前年と同様、競輪のメッカ後楽園において開催した。新鋭、古豪の活躍がめざましく、1,000m独走時間競走で高原永伍、5,000m個人追抜競走では牛島博史がそれぞれ初優勝をかざった。

■第10回大会は10周年を記念して従来開催していたピスト競技の他に新たにロード競技を鈴鹿サーキットで開催した。しかし、ピスト、ロードとも降雨にあい、その悪条件にも拘らず終始熱戦が展開された。特にロードではベテラン大島芳美が第1回ロードレース大会に引き続き優勝したのは特筆されるものであった。

■第11回大会はロード競技を鈴鹿サーキットで、ピスト競技を琵琶湖競輪場にて各々挙行、初夏の好天のもとに熱戦が繰り広げられ次々と新記録の誕生をみた。ロード競技では、28名が大会新記録をマークし、ピスト競技では1,000m独走時間競走において、松川、中村の2選手が日本新記録を打ち立て、5,000m個人追抜競走では牛島博史が三連覇を成し遂げるなど盛会裡に終了した。

■第12回大会はピスト競技を一宮競輪場で開催、新たに4,000m団体追抜競走を加え、4種目を実施した。ロードレースは、鈴鹿サーキットにて180kmにその健脚を競った。本大会は若手の進出がめざましく中でも1,000m独走時間競走において斎藤勝也が日本プロ新記録を樹立した。

■第13回大会はピスト競技4種目を向日町競輪場で、ロードレース180kmを鈴鹿サーキットで実施した。ピストに関してはあいにく雨が災いして記録的にはみるべきものはなかったが、全員ずぶぬれでよく敢闘した。

一方ロードレースは25度をこす高温と多湿の悪条件のもとで完走は危ぶまれていたが全員健闘し、新鋭佐藤寅雄の堂々たる優勝で幕を閉じた。

■第14回大会のピスト競技は従来の競技種目に新たにアメリカンチームレース、速度競走及びオープン種目団体総合成績によるブロック対抗戦を加えて、2日間にわたり静岡競輪場において実施した。

しかしながら2日目以降雨にあい、記録的には満足するものが得られなかったが、1,000m独走時間競走で高原永伍、スクラッチ競走で平間誠記が二度目の優勝を飾った。なお2日目行われる予定のアメリカンチームレースは激しい降雨により中止した。

一方、過去4回鈴鹿サーキットで開催していたロードレースは、富士スピードウェイに舞台を移し180kmにその健脚を競ったが、新鋭の高井政文が優勝した。

■第15回大会のピスト競技は過去2回の大会を実施し、好評を博した宮城県の宮城野自転車競技

場で2日間にわたり実施した。記録的には、2日間とも強風に見舞われ満足する結果は得られなかったが、スクラッチ競走で伊藤繁、1,000m独走時間競走で班目秀雄、5,000m個人追抜競走で山藤浩三の各選手が優勝し、新人の活躍が目覚ましかった。

ロードレースは、昨年同様富士スピードウェイにおいて開催され、180kmにその熱戦を展開した。ゴール前の大宮政志と根本仁の両選手のデットヒートは、ロードレース史上まれに見る白熱した展開であった。結果は3位まで1/2輪差で大宮政志に凱歌が上がった。

■第16回大会のピスト競技では、新装なった伊豆の日本サイクルスポーツセンター 333mグランドで行われた。1,000m独走時間競走では、班目秀雄が1分09秒35の日本記録で優勝、3位までが大会新記録であった。また、5,000m個人追抜競走でも髙原永伍が6分33秒29の日本新記録を樹立した。

ロードレースは富士スピードウェイで行われたが、宮城勢が圧倒的に強く3位までを独占した。

■第17回大会は初めて北海道の地で開催し、多くのファンを集めた。ピスト競技は函館競輪場で行い、1,000m独走時間競走で班目秀雄が3年連続、5,000m個人追抜競走で髙原永伍が2年連続の優勝を飾った。

一方ロードレースは15年振りに一般公道を使用し、80名が参加し函館～長万部（往復）200kmにその覇を競った。その結果、阿部哲が優勝し新鋭が上位を独占、ヤングパワーの素晴らしさをみせつけた。

■第18回大会は四国高松競輪場においてピスト競技が開催され、連日多くのファンを集めた。スクラッチ競走は荒川秀之助、1,000m独走時間競走では地元ファンの声援に応えた清水浩がそれぞれ初優勝し、5,000m個人追抜競走では髙原が3年連続優勝を飾った。

ロードレースは新設のサイクルスポーツセンターを使用し、10月31日開催、新鋭の寺本弘志が初優勝を飾った。

■第19回大会は、風光明媚な玉野競輪場においてピスト競技が開催され、1,000m独走時間競走では班目秀雄が2年ぶり4度目の優勝、アメリカンチームレースは厳しい降雨に見舞われたため、走者を2名、時間を30分に短縮して実施し、その結果昨年に引き続き四国チームが優勝した。

速度競走は地元小谷克明が初優勝、5,000m個人追抜競走は髙原が4年連続優勝、スクラッチ競走は荒川が2年連続優勝の偉業を成し遂げた。

ロードレースは場所を山口県に移して行われた。ここでもピスト競技同様雨にたたられたが各選手ともよく敢闘し出場76選手中67名が完走、優勝は宮城のベテラン佐藤寅雄、2位は佐藤正の兄弟が入賞した。

■第20回大会は、西海の港町、佐世保に全国の精鋭を集め実施された。ロードレースは、佐世保市総合グランド～今福（往復）の一般公道で行われ、ゴール寸前まで予断を許さぬ激戦となっ

たが、新鋭の加藤善行がゴール前抜け出し、初出場初優勝の快挙を遂げた。

一方、ピスト競技は佐世保競輪場に多くのファンが詰めかけ、スクラッチ競走は昨年に引き続き荒川秀之助が3連覇したが、5,000m個人追抜競走で5連覇をねらう髙原永伍は、加藤善行の日本新記録の力走に敗れた。また、1,000m独走時間競走は普通競輪20連勝を遂げた阿部良二が優勝し、3位までを新鋭29期生で独占した。

特に今大会は日本初公開のドミフォン模擬競走が行われて、各チームともその栄冠を目指し闘志を燃やしたが、佐藤寅雄・正兄弟チームが独走する強さを見せ優勝した。

■第21回大会は、久しぶりに関東、茨城県取手競輪場を舞台にピスト競技が開催された。初日行われたドミフォン競走は、昨年の覇者佐藤寅雄・正の北日本地区チームが圧倒的な強さを見せ2連覇を遂げれば、ピストの花スクラッチ競走では、荒川秀之助が巧者ぶりを発揮し4連覇。また、5,000m個人追抜競走は地元茨城の山藤浩三と昨年の覇者加藤善行が予選、決勝とも2度対戦しファンを湧かせたが、加藤がストレート勝ちで優勝。1,000m独走時間競走でチャンピオンとなった阿部良二とともに全プロ2連覇を飾った。この結果、北日本チームは、7種目優勝のパーフェクトを達成した。

一方大会のメイン種目の一つであるロードレースは、茨城県警と大会競技委員会との間において、実施の方向で努力がなされたが、警備体制のメドがたたずやむなく中止を決定した。

■第22回大会は、じつに9年ぶりに舞台を近畿に移し、ピスト競技は福井競輪場、ロード競走は福井県下公道で開催された。

今回は、特に1974年のカナダのモントリオールで行われた世界選手権自転車競技大会プロスクラッチ部門のチャンピオンＰ・ペデルセン（デンマーク）、同第2位Ｊ・ニコルソン（オーストラリア）の特別参加があり国際色豊かな大会となった。スクラッチ競走においては北日本の岩崎誠一が初参加初優勝を飾った。また、5,000m個人追抜競走においても、新鋭の川田不二男が昨年の覇者加藤善行を押さえて優勝。1,000m独走時間競走では千葉ダービーの覇者高橋健二が優勝した。

外国招待選手の出場は大会を一層盛り上げ、Ｐ･ペデルセン、Ｊ･ニコルソン、今大会のチャンピオン岩崎誠一の3国対抗戦は、ニコルソン、ペデルセンがあまりにも牽制しあったため、内線を急迫した岩崎が先着。速度競走は、世界の第一人者が競輪競走に挑戦するという注目のレースであったが、2人の健脚は日本選手を圧した。

ロードレースは岩手の新鋭山本和正がゴール前30km地点からとび出し、そのまま逃げきり1,000mの大差で初優勝。若者の台頭が際だって目立った大会であった。

■第23回大会はピスト競技を熊本競輪場、ロード競技を熊本県下公道で行った。熊本地方はくもりのち雨という悪いコンディションの中で行われたが、一流プロ選手に加えてＪ・ニコルソン（オーストラリア）、Ｐ・ペデルセン（デンマーク）、Ｃ・スタム（オランダ）、Ａ・マルシャル（フランス）、Ｂ・ヴァルラーブ（オランダ）の世界の超一流選手が出場したこともあって、雨中戦にもかかわらず多くのファンが観戦していた。スクラッチ競走においては、“世界第3位”

の実力をもつ阿部良二が福田豊をストレートで破り、優勝。1,000m独走時間競走は、大型新人・菅田順和が1分10秒75の好タイムで初出場優勝を飾った。また、5,000m個人追抜競走は、川田不二男が昨年に引き続き2連勝。速度競走は、地元・矢村正が中野浩一をゴール前交して勝った。ドミフォン競走は外国選手を含めて決勝が行われた結果、キャリアと技術に優るスタム（選手）－ヴァルラーブ（誘導者）組が優勝した。4,000m団体追抜競走は北日本チームが全プロ初の8連覇を達成した。ロード競技は阿蘇周回コースで行われたが、愛知の新鋭・宮地一夫がゴール前で5車身抜け出し初優勝した。

■第24回大会はピスト競技を高知競輪場で開催し各競走に熱戦が展開された。連日多数のファンが詰めかけ、2日目の15日は大会史上初の10,000名が観戦するなど盛会のうちに終了した。大会には地区選手権大会を勝ち抜いてきた代表選手に加え欧州の一流選手が参加し、世界の脚力とテクニックを披露しファンを魅了した。スクラッチ競走は中野浩一が初優勝。1,000m独走時間競走、速度競走は菅田順和が制覇。5,000m個人追抜競走は加藤善行が優勝した。団体競走は北日本地区チームがドミフォン競走、アメリカンチームレースを制覇し、4,000m団体追抜競走は近畿地区チームが初優勝を遂げた。

　ロード競走は5月19日高知県庁前を午前10時スタート、室戸岬一周180kmに80名の選手が参加して行われた。大会の掉尾を飾るにふさわしく、ロードコースとなった国道55号線沿道には10万人の大観衆が詰めかける盛況をみた。競走は地元香川の河渕悦芳がゴール前抜け出し初優勝を遂げた

■第25回大会は、ピスト競技を前橋競輪場で開催し、各競走に熱戦が展開された。世界チャンピオン中野浩一をはじめ総勢147名の選手に加え、招待選手Ｇ・トリーニー（イタリア）、Ｅ・カルディ（イタリア）、Ｄ・クラーク（オーストラリア）、Ｃ・スタム（オランダ）、Ｂ・ヴァルラーブ（オランダ）が参加し、つめかけた多数のファンを魅了、盛会のうちに終了した。中野がスクラッチ競走で2年連続、速度競走でも豪快なまくりを決め初優勝を果たし、高橋健二が1,000m独走時間競走で3年振り2度目の優勝。5,000m個人追抜競走で新鋭の服部雅春が初制覇。団体は近畿地区チームが4,000m団体追抜競走で2連覇、アメリカンチームレースも近畿地区チームが北日本地区チームを圧した。ドミフォンは北日本地区チームが3年連続5度目の優勝を果たした。

　ロードレースは5月18日午前9時30分群馬県庁前を出発点に榛名山一周コース125kmで行われ、地元の宮一透が新鋭の高橋由一をゴール寸前とらえ、3時間14分04秒で初優勝を飾った。

■第26回大会はピスト競技を西宮競輪場で開催し、各競技に熱戦が展開された。

　本大会は、西宮球場内の特設バンク（組立式）において初めてのナイター開催で行われ、初日の開会式は午後5時から6基の照明が点灯される中で場内約9,000名にのぼるファンの見守る中、全国8ブロックの代表選手147名のほか、アマ・スクラッチチャンピオン、A・トカシュ（チェコスロバキア）、プロ・スクラッチ第2位のＤ・ベルクマン（西ドイツ）ら外国招待選手を加え、華々しく開催された。

　競技は、2日間にわたる熱戦の結果、スクラッチ競走において中野浩一が同県の大久保広重

と対戦し、無傷の3連覇を達成、5,000m個人追抜競走に出場した服部雅春は、6分28秒62の日本新記録で2連覇。1,000m独走時間競走は高橋健二が2連覇し、競輪競走においても同選手が優勝した。ドミフォン競走は、北日本地区チームの初出場岡田富夫とベテラン佐藤寅雄の組が、絶妙な呼吸で優勝した。

舞台を姫路に移してのロードレースは、姫路城前をスタート、戸倉（引原ダム、国道29号線）折り返し145kmで争われた。結果は、山本和正、杉田典夫らとゴール前まで激しく競い合い、抜け出した、鷲田善一が初優勝を飾った。

■第27回大会（昭和55年5月10日・11日・15日）於：宇都宮

スクラッチ競走では、中野浩一が予想通り4連覇を遂げ圧倒的な強さを誇った。1,000m独走時間競走は、新鋭村岡和久がベテラン高橋健二を破り、5,000m個人追抜競走は町島洋一が日本新記録で共に初優勝を飾った。今年から世界選正式種目となった競輪競走は菅田順和が豪快なまくりを決め優勝。ドミフォンでは関東地区の坂本儀明･保坂晴稔組が優勝した。アメリカンチームレースで北日本地区チームが優勝、4,000m団体追抜競走では近畿地区チームが4連覇した。

ロードレースは、鶏頂山周回コース（152.5km）で行われ、緑川代志昭がゴール前5キロ地点で抜け出し初優勝を果たした。

■第28回大会は大阪岸和田競輪場で行われ、大会史上初めて、日本アマチュア選手を招待し熱戦を展開した。

スクラッチは、世界チャンピオン中野浩一が銀メダリスト尾崎雅彦を破り圧勝、5,000m個人追抜競走は前評判通り町島洋一が楽勝、1,000m独走時間競走は高橋健二が通算4度目の優勝を遂げた。今大会から登場のポイントレースは片岡克巳が着実にポイントを積み重ね初優勝。アマチュア選手は、4,000m、スクラッチ、1,000mと大活躍だったが外国選手はまったくふるわなかった。

鈴鹿サーキットで行われたロードレースは、無名の新人玉手裕が快勝、ロードのチャンピオンの座についた。

■第29回大会は、5月8・9日の両日みちのく平競輪場で行われた。

スクラッチ競走は五連覇中のワールドチャンピオン中野浩一が負傷欠場したため、決勝は菅田順和と尾崎雅彦の世界選手権銀メダリスト同士の争いとなり、菅田がストレートで尾崎を下し初優勝を飾った。1,000m独走時間競走は新鋭野田正が初Ｖ。この種目第一人者の高橋健二は第7位に終わった。

またオープン参加したＧ・シングルトンは美しいフォームで一気に走り抜き1分6秒63の大会新をマークした。5,000m個人追抜競走は町島洋一がV3を飾り、ケイリンレースは藤巻昇が完全優勝した。ドミフォン競走では庭野博文・中川聡志ペアが初優勝を遂げた。ポイントレースは宮本万裕が2ポイント差で逃切り初優勝。4,000m団体追抜競走は北日本地区チームが2年連続優勝を果たした。外国選手、アマチュア選手との交歓競走はそれぞれ持ち味を発揮、大会を盛り上げた。

なお、今回ロードレースは諸般の事情により中止した。

■第30回大会は、5月14日（土）、15日（日）の両日、函館競輪場でピスト競技、10月2日（日）群馬サイクルスポーツセンター（120km）でロード競技を行った。

スクラッチ競走は王者中野浩一が地元の新鋭堂田将治を一蹴しV6、世界チャンピオンの貫録を示した。1,000m独走時間競走は金田隆博が日本記録保持者である滝沢正光を押さえて初優勝を飾った。5,000m個人追抜競走では下馬評通り岡堀勉が勝ち上がり初Vを達成。ケイリンレースは巧者山口健治が制覇、ドミフォン競走は庭野博文･中川聡志組が昨年に引き続き2連勝、ポイントレースは全プロ初参加の新人田村剛男に凱歌があがり、4,000m団体追抜競走は北日本地区チームが3連覇と記録を伸ばした。

外国、アマチュア招待選手はスクラッチ、1,000mにオープン参加し、Ｙ・カールが1,000m独走時間競走に1分08秒28の今大会一番時計をだせば、アマチュアのNo.1中武克雄が3人制スクラッチでＹ・カールを破るなど、それぞれ持ち味を発揮、大会を盛り上げた。

群馬CSCで行われたロードレースは終盤先頭グループから抜け出した51期の新人藤並克則が後続を振り切り優勝を飾った。

■第31回大会は、5月9日（水）三重県鈴鹿サーキットでロード競技、5月12日（土）、13日（日）の両日向日町競輪場でピスト競技を実施した。

スクラッチ競走は世界チャンピオン中野浩一が決勝で坂本典男をストレートで下し7度目の優勝を達成、世界選V7の豪脚を披露した。1,000m独走時間競走は本田晴美が1分07秒69の好タイムで、5,000m個人追抜競走は田中祥之が決勝で同期の藤田進一を破り、ポイントレースでは伊木隆司が最終ポイントで逆転勝ちし、いずれも初優勝と若い息吹きが古豪を席捲した。またケイリンレースは野田正が中野浩一の追撃を振り切って初V、ドミフォン競走は中川・庭野ペアが第29回大会以来3年連続優勝。4,000m団体追抜競走は近畿地区チームが接戦の末、宿敵北日本地区チームを撃破した。

外国選手10名、アマチュア選手8名が参加した交歓競技は、アマチュアNo.1の中武克雄が初日王者中野浩一、2日目には世界選手権大会準優勝のＹ・カールを破る大金星をあげ、外国選手はＲ・デルブンディが5,000m個人追抜で日本記録を大幅に上回る6分09秒94を記録するなど各種目に熱戦を展開、大会に彩りを添えた。

三重県鈴鹿サーキットで行われたロードレースは、52期の新鋭田村幸雄がゴール前の激戦を制して初優勝を飾った。

■第32回大会は、5月11日（土）、12日（日）の両日、好天に恵まれた松山競輪場に初日5,000名、2日目7,000名の大観衆を集め、盛況裡に開催された。ピストの華スプリント（呼称変更：旧スクラッチ）には全国の自転車競技ファンの熱い視線を浴びて王者中野浩一が出場したが、第2次予選で坂本典男に追い込まれ、第23回の熊本大会準決勝以来、全プロで10年ぶりの敗戦を喫し、決勝は松枝義幸と坂本典男の若手同士の対決となったが、松枝が２－１で坂本を破り初優勝を飾った。ケイリンレースは上り13秒69の好ラップで直線鋭く追い込んだ井上茂徳が、1,000m

独走では滝沢正光が俵信之を0.11秒押え、ポイント競走では榎田浩二が片岡克巳の追撃を振り切り、それぞれ初優勝を飾った。また、ドミフォン競走は中川･庭野組が全プロ4連覇、5,000m個人追抜は田中祥之が昨年に続いて2年連続優勝。4,000m団体追抜は北日本チームが優勝、近畿の連覇を阻止した。交歓競技には外国選手10名、アマチュア7名が参加、競技技術を磨くと同時に、自転車競技を通じ、友好の環を広げた。

■第33回大会は、5月10日、11日の両日ピスト競技を富山競輪場で、ロード競技は5月14日に群馬サイクルスポーツセンターで開催された。ピスト競技は2日目、朝から冷たい雨に見舞われたが、バンクを埋めた6,300人のファンの熱い声援に後押しされて各種目に熱戦を展開した。スプリントは準々決勝で世界選V9の中野が敗れる波乱があり、決勝戦は俵信之と松井英幸の若手同士の対決となったが、俵が２－１で松井を破り王者に輝いた。ケイリン競走は4番手廻りからゴール前豪快に追い込んだ高橋健二が初制覇、初日のハイライト1,000m独走時間競走は本田晴美が1分05秒72の大会新記録を樹立、2年ぶり2度目の「日本一速い男」に輝いた。ポイント競走では55期の新鋭鈴木誠が後半ポイントを稼ぎ初優勝を飾った。ドミフォンは中川・庭野組が全プロ5連覇。5,000m個人追抜競走は田中祥之が向日町､松山に続いて3年連続優勝。4,000m団体追抜競走は北日本地区チームが決勝で南関東地区チームを下し、2年連続14回目の優勝という快挙を成し遂げた。交歓競技には外国選手10名とアマチュア選手7名が出場し、自転車競技の神髄を披露､交歓の環を広げた。また､群馬CSC6kmコース20周回で覇を争ったロードレースは、最終周回まで優勝争いは持ち越されたが、愛知の西川達夫がゴール前鋭く追い込み、混戦に断を下した。

■第34回大会は、ピスト競技を熊本競輪場で5月16日、17日の両日、ロード競技を5月20日に群馬サイクルスポーツセンターで開催した。ピスト競技は両日ともに生憎の雨に見舞われ､ドミフォン競技は中止となったが、熱心なファンの声援を受け、他の6種目に熱戦を展開した。スプリントの決勝は昨年同様、俵信之と松井英幸の若手同士の対決となったが、俵がストレートで松井を破り2年連続2度目の優勝を飾った。ケイリン競走は本田晴美の先行を追い込んだ井上茂徳が2度目の王者に輝いた。初日のハイライト1,000m独走時間競走は東京の白石護が坂本勉をコンマ1秒退け､「日本一速い男」の座についた。ポイント競走では58期の新鋭佐藤仁が前半から快調に飛ばし初優勝。5,000m個人追抜でも、地元ファンの熱い声援を受けた藤村照彦が制するなど若手の活躍が目を引いた。4,000m団体追抜は北日本地区チームが決勝で中部地区チームを下し3年連続15回目の優勝という快挙を成し遂げた。交歓競技には外国選手10名とアマチュア6名が出場し自転車競技の神髄を披露、交歓の環を広げた

　また群馬CSC6kmコース20周回で覇を争ったロードレースは最終周回まで優勝争いは持ち越されたが、広島の斎藤勝がゴール前鋭く追い込み混戦に断を下した。

■第35回大会は、ピスト競技を5月14日、15日の両日弥彦競輪場で、ロード競技を5月18日に群馬サイクルスポーツセンターで開催した。ピスト競技は、5月15日午後1時30分から1時間半にわたってNHKで実況放送され、各種目に全プロチャンピオンの名誉と世界選代表の座をかけた

ホットな戦いが繰り広げられた。スプリントは世界選金・銀コンビの俵信之、松井英幸が決勝を前にいずれも敗退、決勝戦は59期の新鋭坂本英一が同期の井領祐文をストレートで下した。豪華メンバーが顔を揃えたケイリンレースは逃げる滝沢とまくった中野がデットヒートを繰り広げたが、ゴール寸前、小門洋一が追い込み、チャンピオンに輝いた。初日のハイライト、1kmタイムトライアルは、広島の和田誠吾が小橋正義をコンマ3秒退け、「日本一速い男」の座に就いた。また、ポイントレースでは榎田浩二、5,000m個人追抜競走では予選で日本プロ新記録を樹立した堀端義治がそれぞれ優勝。4,000m団体追抜競走は決勝で近畿地区チームが中国地区チームを下し、4年ぶり6回目の優勝を飾った。ドミフォン競走は、地元の大声援を受けた中川・庭野組が6年連続優勝の快挙を成し遂げた。交歓競技には、外国選手10名、アマチュア選手6名が出場、自転車競技の神髄を披露、交歓の環を広げた。また、群馬CSC6kmコース20周回で覇を争ったロードレースは14周回目からリードを奪った藤谷昇が村上英夫に約300mの差をつけ、栄光のゴールに飛び込んだ。

■第36回大会は、トラック競技を初めて第58回全日本アマチュア自転車競技大会との合同開催で5月12日～14日、後楽園東京ドームで開催した。今回は来年開催される日本初の世界選を控えてアマ・プロの一流選手が集う意義深い大会に加え、全プロ初のドーム開催とあって選手の意気が盛り上がり、記録面においても見るべきものが多く充実した大会となった。トラック競技7種目の中で、強豪ひしめくケイリンレースは、滝沢の逃げにマークした鈴木誠が直線鮮やかに追い込み初の栄冠に輝いた。またタイム順に組合せを行うスプリントタイムトライアル方式を初めて採用したスプリントは、世界選金メダル奪回に燃える俵信之が好調松井英幸をストレートで下し、3度目の王座に就いた。

1,000mタイムトライアルは、滋賀の内林久徳が栗原勉をコンマ03秒の微差で下し優勝した。4,000m団体追抜競走では近畿地区チームが4分40秒23の大会新で2連覇を達成した。ポイントレースは窓場加乃敏が着実にポイントをあげ初優勝を遂げ、ドミフォン競走では村上・藤野組の近畿地区チームが初優勝した。また、5,000m個人追抜競走決勝では、同期の神山雄一郎と対戦した飯島規之が自己の持つ記録を1秒22更新する6分11秒75の日本新記録で堂々の優勝を飾った。これらの模様は、最終日の14日13時30分からNHKで放映され、視聴率5%を得るなど成功裡に終了した。

ロードレースは5月17日群馬CSC6kmコースを35周する全長210kmの長丁場で争われ、藤谷昇が食い下がる飯田、安宅をゴール前振り切りV2を達成した。尚、8月14日からフランスのリヨン市で開催される世界選手権大会への派遣選手選考会が、ピスト競技終了後開催され俵信之ら10名の選手が選考された。また、ロードでは藤谷昇が選考されたが残りの選手については後日決定された。

■第37回大会は5月12日、13日の両日トラック競技を前橋競輪場で、ロード競技は5月16日に群馬サイクルスポーツセンターで開催された。トラック競技は連日好天に恵まれ、熱心なファンの声援を受け各種目に熱戦が展開された。スプリントでは、坂本英一が準々決勝で神山雄一郎をストレートで下し、決勝戦でも巧者松井英幸を破り弥彦大会に続く2度目の栄冠を手中にした。

強豪ひしめくケイリンレースは鈴木誠のまくりを俵信之がゴール前鮮やかにとらえ堂々の初優勝を飾った。1,000mタイムトライアルは、1分6秒台のハイレベルな戦いとなり、64期の新鋭三宅伸が1分6秒8の好タイムで鈴木誠、栗原勉らを抑えて初優勝を飾った。4,000m団体追抜競走は、予選で4分38秒50の大会新記録を出した北日本地区チームが余勢をかって中国地区チームを下し通算16回目の優勝を成し遂げた。ドミフォン競走は、村上・藤野組の近畿地区チームがV2を達成、5,000m個人追抜競走でも、飯島規之が6分20秒88のタイムで堀端義治を下し昨年に続き2連覇を遂げた。ポイント競走は、新競技規則により実施されたが、55期の平田崇昭が後半ポイントを着実に稼ぎ初優勝を飾った。交歓競技には、外国選手10名とアマチュア選手7名が出場、自転車の神髄を披露、交歓の環を広げた。ロード競技は、群馬CSC6kmコースを35周する210kmの長丁場で争われ、浅田顕が25周回から単騎の逃げを打ち、後続選手を大きく引き離す快走を見せ堂々の初優勝を飾った。

■第38回大会は、5月10日～11日トラック競技をグリーンドーム前橋で、ロード競技を15日に群馬CSCで開催した。トラック競技初日は西宮大会以来12年ぶりのナイターで行われ、1,000m独走時間競走では新鋭吉岡稔真が1分5秒44の大会新記録で初優勝を飾った。4,000m団体追抜競走でもハイレベルな戦いとなり、北日本地区チームが4分32秒12の日本プロ新記録で関東地区チームを下し通算17回目の優勝を飾った。2日目の決勝種目ケイリンレースは、1,000mタイムトライアルを制し意気上がる吉岡稔真が中野浩一、坂本勉ら強豪を相手に1周半の鮮やかな逃げきりを決め2冠に輝いた。5,000m個人追抜競走は、飯島規之が第一人者の貫録を見せ3連覇を達成した。スプリントでは坂本英一が順当に勝ち上り、決勝で波潟和男をストレートで下し昨年に続き連続優勝、3度目の日本一に輝いた。ドミフォン競走は、榎田･卜田組が初優勝した。ロードプロが初参加し注目されたポイント競走は、期待に応え安原昌弘が優勝、三浦恭資も2位に入り上位を独占した。交歓競技は、ヒューブナーら外国選手10名が参加し交歓の環を広げた。ロード競技は、ロードプロ4名、地区代表40名の44選手が出場し180kmの距離で行われ、三浦恭資がゴール1km手前でスパート、森幸春を振り切り優勝した。

■第39回大会は、ロード競技を5月14日群馬CSCで、トラック競技を引き続き5月15日・16日の両日グリーンドーム前橋にての連続開催となり、場所については昨年と変わらないが、競技日程においてこれまでと異なった開催となった。ロード競技については、地区代表の競輪選手40名、ロードプロ6名の計46名が出場し、小雨降る中180km（6km×30周）の距離で行われ26周回で三浦、森が抜け出し、29周回で三浦がスパートをかけ、森を振り切り2年連続優勝した。トラック競技についてはスプリント競走が従来の勝ち上がり方式と異なり、第1次予選と敗者復活戦がなくなり、予選から16名が第2次予選へ進み、準々決勝、準決勝、決勝と勝ち上がる方式で実施された。決勝は松井英幸、海田和裕の中部地区同士の対戦となり海田が1本目先勝したが、2本目、3本目を松井が勝ち、初優勝を飾った。ケイリンレースについては最終周回ホーム6番手から豪快にまくった吉岡稔真が2年連続優勝となった。1,000m独走時間競走は、地元新鋭の清水敏一が1分5秒53の好タイムで優勝した。5,000m個人追抜競走は、飯島規之が5分59秒61の大会新による4年連続の優勝を飾った。また、惜しくも決勝で敗れた野井正紀も6分00秒21の大

会新の好走を見せた。ポイントレースは、中間ボーナスポイントを獲得するなど、着実にポイントを重ねた斎藤勝が昨年の雪辱を果たした。ドミフォン競走は、残り8周回から一気に先頭に立った榎田浩二･渡辺孝夫組が優勝した。4,000m団体追抜競走は、昨年のメンバーが3名残った北日本地区チームが日本プロ新・大会新の4分31秒27のタイムで3年連続優勝を飾った。

■第40回大会は、ロード競技を4月21日群馬CSCで、トラック競技を5月20日・21日の両日グリーンドーム前橋にて4回連続の開催となり、前橋のファンに定着した大会として実施された。

ロード競技においては、昨年と同様に地区代表の競輪選手40名、ロードプロ8名、さらにアマ3名を招待し計51名が出場し、180km（6km×30周）の距離で争われた。当日は無風気温6度の肌寒い中午前9時にスタートし、13周回で藤野智一（ロード・プロ）、岡本健（アマ）の2人が抜け出し、25周回で藤野が岡本を振り切り初優勝した。

トラック競技については、スプリント競走で昨年優勝の松井英幸、準優勝海田和裕がともに準々決勝で敗退し、決勝は有坂直樹、北川智博で争われ、ストレートで有坂が初優勝を飾った。ケイリンレースは、最終周回1センター 4番手からまくった山田裕仁が初優勝を飾った。1,000mタイムトライアルでは地元新鋭の稲村成浩が1分4秒568の大会新記録で初優勝を飾り、昨年優勝の清水敏一に続き2年連続地元群馬の勝利となった。4,000m個人追抜競走は、本年よりプロ・アマオープン化に伴う世界選手権種目にあわせ、従来の5,000mの距離を変更して行われ、過去4回連続優勝している飯島規之が予選で4分47秒91のトップタイムで決勝進出を果たし、決勝では森山昌昭を11周回目に追い抜き5年連続優勝を果たした。ポイントレースは安原昌弘が着実に周回ポイントをあげ、2度目の優勝を果たした。ドミフォン競走は、昨年優勝の榎田浩二・渡辺孝夫組と佐々木一昭、山崎幸悦の2チームのトップ争いとなり、佐々木、山崎組が残り4周回となったところから先頭に抜け出し初優勝を飾った。4,000m団体追抜競走は、北日本地区チームが圧倒的な強さで中部地区チームを破り、4年連続優勝を飾った。

■第41回大会は、ロード競技を4月20日大分県･上津江村の大分阿蘇レーシングパークで、トラック競技を5月14日・15日の両日、熊本競輪場にて開催した。

ロード競技は、気温13.5度・風速10mの雨の中、競輪選手40名、ロードプロ10名、アマ5名の計55選手が出場し、186.96km（4.674km×40周）の距離で争われた。序盤戦は各選手とも相手の動きを警戒しながら集団を形成していたが、37周回に入り阿部良之（アマ）が単騎の逃げをみせ、そのまま逃げ切り、アマチュアとして本大会初優勝を飾った。

トラック競技は、スプリント競走決勝が海田和裕･古川圭の65回生同期対決となり、ストレートで海田が初優勝を飾った。ケイリンレースは、これまで予選3レースの27名の選手で争われていたが、今回より予選5レース45名の出場選手となり、決勝は昨年の世界選ノルウェー大会銅メダルの吉岡稔真が、上り10秒58の好タイムで優勝し、王座を奪回した。1,000mタイムトライアルは、昨年の覇者の稲村成浩が1分05秒23の大会新記録で連続優勝を果たした。4,000m個人追抜競走は、昨年と同様に飯島規之と野井正紀の決勝対決となり、飯島が4分48秒43の日本プロ新記録で6連覇を達成した。ポイントレースは、着実にポイントを重ねた斎藤勝が第39回大会に続いて2度目の優勝を飾った。ドミフォン競走は、昨年に続き佐々木一昭・山崎幸悦組

と榎田浩二･渡辺孝夫組との激烈なトップ争いが行われ、あと7周というところで前走の佐々木･山崎組を榎田・渡辺組が内から追い抜き失格。これに伴い佐々木は落車、順調にペースを保った笹川竜二・庭野博文組が優勝した。4,000m団体追抜競走は、近畿地区チームが4分36秒96の日本プロ新記録（屋外）で中部地区チームを破り優勝した。

■第42回大会は、トラック競技を5月14日･15日の両日、名古屋競輪場で、ロード競技を7月16日、磐越自動車道において開催した。

トラック競技は、連日雨天の中での開催となったが全種目を消化することができた。スプリント決勝は、昨年覇者の海田和裕（三重）を下して勝ち上がった北川智博（滋賀）と一昨年覇者の有坂直樹（秋田）を下して勝ち上がった古川圭（福岡）の対戦となり、北川が古川にストレート勝ちし初優勝を飾った。ケイリンは、前回出場選手数が45名であったが、今回は63名に増やして実施した。決勝は、山田裕仁の逃げをゴール前にマークしていた佐々木昭彦が追い込んで初優勝した。1,000mタイムトライアルは、4月のアジア選手権大会金メダルの稲村成浩と競輪の第一人者神山雄一郎、アマ時代よりこの種目を得意としている小嶋敬二との間で激戦が展開され、神山雄一郎が1分4秒72の大会新記録で初優勝を飾った。また、女子プロの橋本聖子選手もこの種目に参加し、1分15秒22と自己最高に近いタイムを記録した。4,000m個人追抜競走は、今回も飯島規之が圧倒的な強さをみせて7連覇を果たした。4,000m団体追抜競走は近畿地区チームが昨年に続き2連覇を果たした。ポイントはアジア選手権大会金メダルの安原昌弘が車体故障により出遅れ、窓場加乃敏が着実にポイントを重ね2度目の優勝を飾った。また、今大会よりドミフォン競走が廃止され、これによりオープン競技としてオリンピックスプリントとエリミネーションの2種目を実施した。オリンピックスプリントは南関東地区チームが優勝し、エリミネーションは神山雄一郎が優勝した。

ロード競技（126km）も雨の中のレースとなり、65km付近で橋川健、藤野智一、今中大介のプロ選手と渋谷淳一、鈴木新史、真鍋和幸のアマ3名づつがトップ集団を形成し、101km付近で今中、藤野、橋川の3名が抜け出し、さらに104km付近で橋川が単独で逃げ、そのままゴールし初優勝を飾った。

■第43回大会は、アトランタオリンピック代表選手選考会も兼ね、ロード競技を4月17日、群馬サイクルスポーツセンターで、トラック競技を5月12日･13日の両日いわき平競輪場で開催した。

ロード競技（210km）は、前夜来の雨も上り絶好のコンディションの中で行われた。29周回目で住田修（シマノ）が一端抜け出したが、真鍋和幸（宮田工業）、菊田潤一（エメキス･オンダ）が追い付き後続を3分引き離し、3人で先頭集団を形成、最終周回で菊田がやや遅れ、ゴールスプリントで住田が真鍋を振り切って1着でゴール。2着には真鍋が入り、約6秒差で菊田が3位でゴールした。

トラック競技は、全国からプロ・アマの精鋭180名が参加した。注目の1kmタイムトライアルは、新鋭の十文字貴信（茨城）が国内最高の1分3秒693の大会新記録で優勝、アトランタ行きの切符を手にした。この大会にかけた神山雄一郎は及ばず2位に終わった。スプリントは、北川智博（滋賀）の一人舞台、圧倒的強さで連覇した。ケイリンは、九州で連携した本田博（鹿

児島）が初優勝。4km個人追抜競走は野井正紀（神奈川）が飯島規之（埼玉）の8連覇を阻止、悲願の優勝を飾った。ポイントレースは、磯野永悟（滋賀）が接戦の末、最終ポイント周回で先着し逆転勝利で初優勝。4km団体追抜競走は、近畿地区チーム（鷲田善一、桑野治行、植松弘直、梯広幸）が圧倒的強さで3連覇。オリンピックスプリントは関東地区チーム（十文字貴信、清水敏一、太田真一）が全プロ大会記録で優勝。女子スプリント、女子3km個人追抜競走は橋本聖子が国内第一人者の貫録を示し2種目に優勝、夏・冬合わせて7度目のオリンピック行きを決めた。また、全競技終了後、オリンピック代表及び、'96世界選代表候補選手が選考された。

■第44回大会は、ロード競技を4月23日（水）、群馬サイクルスポーツセンターで、トラック競技を5月11日（日）・12日（月）の両日、弥彦競輪場において開催した。

ロード競技は、強風の中、距離180kmで行われ、スタートから終始単独で逃げた阿部良之（シマノ・マペイGB）が後続に約2分の差をつけ、第41回大会（平成6年）に次いで2度目の優勝を果たした。2位には今中大介（シマノ・ポルティ）、3位には三浦恭資（トニスティナー・コルナゴ）が入った。

トラック競技は、両日とも好天に恵まれ、全国からプロ・アマの精鋭180名が参加した。スプリントは、ダッシュ力が増したレース巧者の北川智博（滋賀）が3連覇を果たし、ケイリンは、本田博（鹿児島）の番手捲りを決め2連覇。1kmタイムトライアルはアトランタオリンピック銅メダルの十文字貴信（茨城）が圧勝した。4km個人追抜競走は、予選で全プロ大会新記録をマークした飯島規之（埼玉）が8度目の優勝（5,000m個人追抜競走より通算）。4km団体追抜競走は、関東地区チームが接戦の末、近畿地区チームの4連覇を阻み優勝した。ポイントレースは、各周回で着実にポイントを重ねた鰐渕正利（愛知）が初優勝した。オリンピックスプリントは若いパワーが爆発した関東地区チームが2連覇を果たした。

■第45回大会は、ロード競技を4月22日（水）群馬サイクルスポーツセンターで、トラック競技を5月10日（日）・11日（月）の両日、千葉競輪場で実施した。

ロード競技は、初夏の陽気を思わせるコンディションの中、距離180kmで行われ、橋川健（トニスティナー・コルナゴ）が混戦を抜け出し、第42回大会（平成7年）に次いで2度目の優勝を果たした。タイムは4時間37分53秒。2位は藤野智一（イノアック・デキ）、3位は三浦恭資（エザック）が入った。連覇を狙った阿部良之（シマノ）は18位に終わった。

トラック競技は、2日目午後から小雨というあいにくの天候となったものの、全国からプロ・アマ精鋭198名が参加し熱戦を繰り広げた。

スプリントは、テクニックとダッシュに定評のある北川智博（滋賀）が4連覇を果たし、ケイリンは、現在絶好調の高木隆弘（神奈川）が初優勝した。1kmタイムトライアルは十文字貴信（茨城）がただ一人1分4秒台を記録、メダリストの貫録を見せた。4km個人追抜競走は、飯島規之（埼玉）が自己の持つ全プロ大会記録を予選、決勝で2回とも更新、健在をアピール。ポイントレースは、吉井功治（チーム日本事務代行）が初優勝。4km団体追抜競走は、近畿地区チームが関東地区チームに雪辱した。オリンピックスプリントは関東地区チームが3連覇。女子スプリントは門脇真由美（中川サイクルレーシング）が、新女王の座についた。女子500mタイムトライアルでは、太刀川麻也（明治大学）が力強い走りをみせ、女子3km個人追

抜競走では大塚歩（筑波大学）が大差で優勝した。

■第46回大会は、ロード競技を4月25日（日）、広島県中央森林公園で、トラック競技を5月9日（日）・10日（月）の両日広島競輪場で実施した。

ロード競技は、晴天ながらも時折強い風が吹く中、広島空港の諸施設を回る1周12kmの周回コースで行われた。序盤は大集団で推移し、最終周回に藤野智一・渋谷淳一（両者ブリヂストン・アンカー）の両名が抜け出し、ゴール前わずかに藤野が先着し、4時間40分48秒で第40回大会（平成5年）に次いで2度目の優勝を果たした。

トラック競技は、2日間とも初夏の陽射しが強く輝く晴天に恵まれ、全国からプロ・アマの精鋭237名が参加し、熱戦が繰り広げられた。男子スプリントは、万全の体調で勢いのついた山田英樹（茨城）が初優勝し、ケイリンは王者の貫禄を示した神山雄一郎（栃木）が初優勝した。男子1kmタイムトライアルは、稲村成浩（群馬）がただ一人1分4秒台を記録し、3度目の優勝を飾った。4km個人追抜競走は飯島規之（埼玉）が圧倒的な強さを示し、10回目の優勝をした。男子ポイントレースは吉井功治（日本鋪道）が2連覇した。今大会初種目のマディソンは、高橋仁、塩原正長（両者チチヤス乳業）が優勝した。女子スプリントは村下和代（フリー）がストレートで優勝した。女子500mタイムトライアルは太刀川麻也（明大）が連覇した。3km個人追抜競走は飯田香里（チェブロ）が優勝し、女子ポイントレースは沖美穂（チェブロ）がそれぞれ優勝した。

今大会は全日本大会と合同にての開催のため、従来より参加選手数が増え、熾烈な優勝争いが展開された。

また、全競技終了後第19回アジア選手権大会・'99世界選手権大会代表候補選手が選考された。

■第47回大会は、トラック競技を5月14日（日）・15日（月）弥彦競輪場で、ロード競技を6月10日（土）広島県中央森林公園で、それぞれ実施した。

トラック競技はくもり空の下178名が参加し、熱戦が繰り広げられた。スプリントは、昨年の覇者山田英樹（茨城）を1/2決勝で退けた金子貴志（愛知）が、決勝で、桜井健（徳島）をストレートで下し初優勝。ケイリンは、山田裕仁（岐阜）が、2回目の優勝を飾った。なお、神山雄一郎（栃木）は落車棄権、太田真一は準決勝で敗退した。1kmタイムトライアルは、伏見俊昭（福島）が1分5秒235のタイムで初優勝。稲村成浩（群馬）は3位。4km個人追抜競走は、飯島規之（埼玉）が圧倒的な強さで4年連続11回目の優勝。ポイントレースは、安定した走りをみせた狩野智也（ロードプロ）が辛勝。4km団体追抜競走は、近畿地区チームが南関東地区チームを抑え優勝。またオリンピックスプリントは、関東地区チームが近畿地区チームを圧倒し優勝した。

全競技終了後、2000年シドニーオリンピック及び世界選手権大会代表候補が選考された。

■第48回大会（2001年）は、トラック競技を5月12日（土）・13日（日）一宮競輪場で、ロード競技を6月9日（土）北海道・大滝村総合運動公園特設コースにおいて、それぞれ実施した。

トラック競技は、天候にも恵まれ177名が参加し熱戦が繰り広げられた。また、平成4年以来

9年ぶりに外国招待選手6名を迎え、交歓競技が行われた。スプリントは、金子貴志（愛知）が危なげない走りで2連覇を果たした。ケイリンは、決勝に近畿勢が4名勝ち進み内林久徳（滋賀）が初優勝、さらに3着まで同地区選手が独占した。1kmタイムトライアルは、伏見俊昭が1分05秒191のタイムで荒井崇博（佐賀）を僅差押さえて連覇。4km個人追抜競走は、飯島規之（埼玉）が圧倒的強さを見せ5年連続12回目の優勝を飾った。ポイントレースは、本命の飯島規之（埼玉）を抑えて、内藤宣彦（秋田）が最終のダブルポイントを獲得し初優勝。4km団体追抜競走は、南関東地区チームが4分32秒379のタイムで近畿地区チームに快勝した。また、オリンピックスプリントは、関東地区チームが3連覇を成し遂げた。

なお、全競技終了後2001年世界選手権自転車競技大会代表候補選手が選考された。

ロード競技は1周12.9kmを7周回するコースで行われた。レースは、昨年に引き続き、飯島規之（埼玉）が早期周回から先頭に飛び出し、離されたものの、それに続いて大塚英伸（静岡）、石井雅史（神奈川）もくいついていく。終盤に入り大塚、石井が追い上げを図るが、最終的に飯島が二人を振り切って2連覇を飾った。

■第49回大会（2002）はトラック競技を5月11日（土）・12日（日）の両日、東京OVAL京王閣で、ロード競技を6月11日（火）栃木県茂木町のツインリンクもてぎにおいて、それぞれ実施した。

トラック競技は、初日あいにく早朝から小雨がぱらつく天気も、ファン入場の頃にはすっかりあがり、177名が参加し、各種目に健脚を競った。

また、昨年に引き続き外国招待選手7名を迎え交歓競技が行われた。スプリントは前年までの覇者金子貴志を破った前反祐一郎（広島）が初優勝を果たした。ケイリンでも斎藤登志信（山形）が最終バック渾身のまくりで初優勝した。1kmタイムトライアルは伏見俊昭（福島）が貫禄を示し1分04秒500のタイムで3連覇を成し遂げた。4km個人追抜競走は、前年まで6年連続12回の優勝を誇る飯島規之（埼玉）がアジア選手権自転車競技大会から当日帰国というスケジュールからか精彩がなく、新鋭佐々木孝司（青森）の前に敗れた。ポイントレースは前半の周回でポイントを稼いだ大塚英伸（静岡）が僅か1ポイント差で逃げ切った。今年より名称が変わったチームスプリントは、関東地区チームがプレッシャーをものともせず4連続を成し遂げた。

また4km団体追抜競走は、予選より大接戦となり、決勝は予選と同じ対戦となり関東を微差で破った中部地区チームが初優勝した。

なお、競技終了後2002年世界選手権自転車競技大会代表候補選手が選考された。

ロード競技は夏を思わせる強い陽射しの中、1周4.8kmを20周（96km）する平坦なコースで行われた。レースは実力者飯島規之（埼玉）が5周回から先頭に立ち、そのまま逃げ切り3年連続して優勝を飾った。

■第50回大会（2003）は、トラック競技を5月10日（土）・11日（日）に青森競輪場で、ロード競技を6月18日（水）に青森市合子沢記念公園周回コースでそれぞれ実施した。

トラック競技は、肌寒さが残る青森の地に179名の参加者が集い、それぞれ己の健脚を競いあった。また、今大会は記念すべき第50回を迎えたことから、昨年同様に外国人選手8名を招

待し躍動感あふれる走りをファンにアピールするとともに、障害をもちながらも自転車競技でメダルを目指すアスリートにも参加頂き、大会を大いに盛り上げた。

スプリント決勝は第49回大会と同じ顔合わせとなったが、昨年の覇者前反祐一郎を破った金子貴志（愛知）が3回目の優勝を飾った。ケイリンでは復活をかける吉岡稔真（福岡）が9年振りに完全優勝。若手の台頭が目立った今大会は、1kmタイムトライアルで荒井崇博（佐賀）、ポイントレースで山中猛（沖縄）、4km個人追抜競走では初出場で全プロ記録を塗り替えた内田慶（栃木）がそれぞれ初優勝を飾った。4km団体追抜競走は古豪近畿地区チームが3年ぶりの優勝を飾り、チームスプリントは予選で大会新記録を樹立した関東地区チームが、大会5連覇を達成した。

なお、競技終了後2003年世界選手権自転車競技大会代表候補選手が選考された。

ロード競技は、1周4.4kmの公道を18周（79.2km）するコースで行われた。レースは3周回から飯島規之（埼玉）が抜け出し、圧倒的強さを見せつけ大会4連覇を達成した。

■第51回大会は、トラック競技を5月9日（日）に四日市競輪場で、ロード競技を6月16日（水）に伊勢市・三重県営サンアリーナ周回コースでそれぞれ実施した。

トラック競技は、一日中雨の降る悪コンディションではあったが、全国から182名の精鋭たちが四日市の地に集結し、ファンの声援を受け熱戦が繰り広げられた。また、今大会はナイターによる1日開催を実施。ファンには、新しいスタイルの全プロ大会をアピールすることになった。

1kmタイムトライアルは、粘り強い走りを見せた中川誠一郎（熊本）が1分04秒944の自己ベストを出し初優勝。スプリント決勝は、この種目の第1人者であり昨年の覇者金子貴志（愛知）と井上昌己（長崎）の対戦となったが、井上がストレートで金子を破り初のチャンピオンに輝いた。チームスプリントは、昨年と同じ群馬のメンバーで編成された関東地区チーム（稲村成浩･小林大介･兵藤一也）が、順当に予選を1位で通過すると、決勝でも実力ある走りをみせ堂々の大会6連覇を達成。4km個人追抜では、前年初出場でありながら全プロ記録を塗り替え初優勝を飾った内田慶（栃木）が、2位に8秒以上の大差を付ける4分43秒043のタイムで見事に連覇。4km団体追抜は、埼玉勢の関東地区チーム（吉田勇人・小沼良・白岩大助・太田耕二）が7大会ぶりの優勝を飾った。

ロード競技は、真夏を思わせる好天の下、1周3kmの公道を33周（99km）する周回コースで行われた。レースは、優勝候補筆頭の飯島規之（埼玉）が28周回過ぎから仕掛け、2位に30秒以上の大差を付け5連覇を達成した。

■第52回大会（2005）は、トラック競技を5月23日（月）に松戸競輪場で、ロード競技を9月29日（木）に静岡県伊豆市日本CSC5kmサーキットコースでそれぞれ実施した。

トラック競技は、好天の下178名の精鋭たちが参加し、ファンの声援の中熱戦が繰り広げられた。今大会も前回に引き続き、ナイターによる1日開催で実施された。

1kmTTは重いバンクの中、唯一5秒台を出した村上博幸（京都）が、激戦が予想されたスプリントは成田和也（福島）が、ポイントレースは小松剛之（宮城）がそれぞれ初優勝を飾った。チームスプリントは、四国チーム（渡部哲男・濱田浩司・岡本大嗣）が大会7連覇をかけた関

東チームを破り初の優勝を飾った。4km個人追抜では2位に18秒差を付けた内田慶（栃木）が3連覇。4km団体追抜は近畿チーム（窓場加乃敏・久米康徳・岩﨑稔・山岸正教）が2年ぶり14回目の優勝を達成。ケイリンは神山雄一郎（栃木）が最終2コーナーから捲り、6年ぶり2度目の優勝を飾った。

ロード競技は9月29日、静岡県伊豆市「日本CSC5kmサーキットコース」で行われ、12周60kmの距離を40名が参加して行われた。レースは3周目から先頭に立った飯島規之（埼玉）がそのまま逃げ切り、2位に5分以上の大差をつけ優勝。大会6連覇を達成した。

■第53回大会（2006）は、トラック競技を5月15日（月）に松山競輪場で、ロード競技を9月28日（木）に静岡県伊豆市日本CSC5kmサーキットコースでそれぞれ実施した。

トラック競技は肌寒さが残る松山に177名が参加し、己の健脚を競い合った。またトラック競技において、韓国競輪選手4名を招聘し日韓交歓競技（ケイリン）が行われた。

混戦が予想されたスプリントはこの種目第一人者の金子貴志（愛知）が、ケイリンは持ち前の機動力を生かした武田豊樹（茨城）がそれぞれ優勝。1kmTTは矢口啓一郎（群馬）が初優勝を飾った。4km個人追抜は内田慶（栃木）が完璧な走りで4連覇を達成。ポイントレースは四宮哲郎（京都）が逃げ切り優勝。4km団体追抜は近畿地区チーム（窓場加乃敏・久米康徳・岩﨑稔・山岸正教）が日本プロ記録・全プロ大会記録を更新し連覇を達成した。チームスプリントは四国地区チーム（渡部哲男・濱田浩司・岡本大嗣）が全プロ大会新記録（屋外）を出し優勝、地元開催に華を添えた。

ロード競技は9月28日、静岡県伊豆市「日本CSC5kmサーキットコース」で行われ、12周60kmの距離を40名が参加してレースが行われた。レースは2周回目から先頭に立った飯島規之（埼玉）がそのまま逃げ切り、2位に4分以上の大差をつけ優勝。同大会7連覇を達成した。

■第54回大会（2007）は、トラック競技を5月13日（日）にいわき平競輪場で、ロード競技を9月26日（水）に和歌山県・旧南紀白浜空港跡地でそれぞれ実施した。

トラック競技は好天の下178名の精鋭が集い熱戦が繰り広げられた。また、女子選手による交歓競技（ケイリン）も行われた。

世界を舞台に戦うナショナルチームのメンバーが顔を揃えたスプリントは、地元・渡邉一成（福島）が優勝。ケイリンは昨年優勝の武田豊樹（茨城）が2連覇を達成。1kmTTは大森慶一（北海道）が、また4km団体追抜競走は九州地区チーム（柊元則彦・梶山裕次郎・白水洵・田中孝法）がそれぞれ大会新記録で優勝を決めた。

4km個人追抜競走は貫禄の走りを見せた内田慶（栃木）が大会新記録で5連覇を達成した。ポイントレースは着実にポイントを重ねた岡村潤（静岡）が優勝。チームスプリントは北日本地区チーム（伏見俊昭・佐藤慎太郎・佐々木雄一）が優勝し、地元開催に華を添えた。

ロード競技は、和歌山県西牟婁郡白浜町「旧南紀白浜空港跡地2.7kmコース」を舞台に、30周81kmの距離を40名が参加して行われた。レースは最終回までもつれ、最後は7人の集団のまま直線でのゴールスプリント勝負となる。ケイリンのゴールシーンさながらのハンドル投げで勝負は決まり、中井健二（岡山）が優勝を飾った。

■第55回大会は、トラック競技を5月11日（日）奈良競輪場で、また、本年度よりロード競技に代わり初開催となったBMX競技を10月5日（日）国営ひたち海浜公園BMXコースでそれぞれ実施した。

トラック競技は、晴天の下178名の選手が参加し、多くのファンが見守る中熱戦が繰り広げられた。また、北京オリンピックを8月に控えていたこともあり、日本代表選手には熱い視線が送られた。

スプリント決勝は、昨年と同じ組み合わせで、北京オリンピック日本代表同士でもある渡邉一成（福島）と北津留翼（福岡）の対戦となったが、昨年覇者の渡邉が2連勝し、大会2連覇を達成した。ケイリンでは武田豊樹（茨城）が3連覇を達成。1kmタイムトライアルは稲垣裕之（京都）が初優勝。ポイントレースは四宮哲郎が第53回大会以来2度目の優勝を飾り、4㎞個人追抜競走では内田慶（栃木）が貫録の大会6連覇を達成した。チームスプリントは四国チームが2年ぶり3回目の優勝で昨年の雪辱を果たし、4㎞団体追抜では関東チームが4年ぶりの優勝を飾った。

BMX競技は、さわやかな秋晴れの下40名の選手が参加して行われた。レース形態やユニークな場内アナウンス等従来の全プロ大会には無い雰囲気のなかで、勝敗もさることながら競技の楽しさを十分に実感できる大会となり、稲川翔（大阪）が記念すべき第1回大会の覇者となった。

■第56回大会は、トラック競技を5月17日（日）花月園競輪場で、また、BMX競技を11月8日（日）日本サイクルスポーツセンター BMXコースでそれぞれ実施した。

トラック競技は、全国から176名の精鋭が横浜の地に集結し、強風吹き荒れる悪天候の中、各種目で熱戦が繰り広げられた。また、今大会はエキシビションレースとして女子ケイリンを、日韓両国の親睦として日韓ケイリンをそれぞれ実施し、来場者の好評を得た。

スプリントは、昨年準優勝の北津留翼（福岡）が同3位の成田和也（福島）をストレートで下し初優勝。ケイリンは番手捲りの平原康多（埼玉）をゴール前で追い込んだ武田豊樹（茨城）が優勝し、大会4連覇を達成した。1kmタイムトライアルはナショナルチームの意地を見せた新田祐大（福島）が、唯一の4秒台で初優勝。4㎞個人追抜競走はベテランの飯島規之（埼玉）が8年ぶり13回目の優勝を飾った。4㎞団体追抜競走は九州地区（大分チーム）が2年ぶりに優勝。チームスプリントはタイムトライアル形式で行われ、若いメンバーで編成された中部地区（三重チーム）が優勝した。ポイントレースは前半で着実にポイントを獲得し、後半に勝負をかけた倉野隆太郎（愛知）が初優勝した。

BMX競技は、45名の参加選手により白熱したレースが展開され、昨年覇者の稲川翔（大阪）が大会2連覇を達成した。大会では全日本BMX連盟所属のジュニア・エリート選手によるエキシビションレースも実施され、この競技の醍醐味であるジャンプ等の高度なパフォーマンスに会場は大いに盛り上がった。

■第57回全日本プロ選手権自転車競技大会はトラック競技を５月16日（日）に函館競輪場で、ＢＭＸ競技を11月７日（日）に日本サイクルスポーツセンターＢＭＸコースで開催した。

トラック競技は、午前９時30分のスプリント予選から熱戦の火蓋が切られ、午後からは各競技の決勝が行われ熱戦が展開された。ケイリンは村上博幸（京都）が初優勝し、武田豊樹（茨城）の５連覇を阻んだ。１㎞タイムトライアルは新田祐大（福島）が連覇を果たした。４㎞個人追抜は96期の新鋭、山下一輝（山口）が初優勝、団体競技はチームスプリント（富山チーム、宮越孝治、笹倉慎也）、４㎞団体追抜競走（石川チーム、坂上忠克、岩本和也、坂上樹大、辻力）とも中部地区が独占した。ポイントレースは小林潤二（群馬）が終盤の激戦を勝抜き栄冠を手にした。スプリントは北津留翼（福岡）が渡邉一成（福島）との熱戦を制し、２連覇を飾った。またエキジビションとしてガールズケイリン、ミスアンドアウトケイリンが行われ、大会に花を添えた。

ＢＭＸ競技決勝戦は、経験者豊富な新興勢力を昨年大会のファイナリスト４名が迎え撃つ形となった。スタートから西岡、黒田の新興勢力が先行し、他の追随を許さずそのままフィニッシュ。西岡が初出場初優勝を果たし、同じく初出場の黒田が２位となった。決勝戦後には本大会上位３名とＢＭＸエリート選手３名による「アルティメットマッチ」が行われ大会を盛り上げた。

■第58回全日本プロ選手権自転車競技大会は、トラック競技を５月16日（月）に防府競輪場で、ＢＭＸ競技を11月13日（日）に日本サイクルスポーツセンターＢＭＸコースで開催した。

トラック競技は、全国の地区プロを勝ち抜いた選手174名が集結し熱戦を繰り広げた。ケイリンは、武田豊樹（茨城）が２年ぶりの５度目の優勝を飾り、１kmタイムトライアルは新田祐大（福島）が貫録の走りで３連覇を果たした。スプリントは北津留翼（福岡）が渡邉一成（福島）との熱戦を制し３連覇を飾った。４㎞個人追抜競走は地元の山下一輝（山口）が２連覇を達成し、チームスプリントは北日本地区（福島チーム）、４㎞団体追抜競走は九州地区（大分チーム）、全プロでの実施は初めてとなったエリミネイションレースは中曽直彦（千葉）が優勝した。またエキシビションとして日本競輪学校女子第１回生徒７名によるガールズレースが行われ、注目を集めた。

ＢＭＸ競技決勝戦は、国際ＢＭＸ選手権大会で優勝した経験をもつ古性優作（大阪）、前回大会チャンピオンの西岡拓朗（広島）、前回大会２位の黒田淳（岡山）がスタートで抜けだし接戦となったが、古性が一歩抜け出すとそのままリードを保ち、初出場初優勝を飾った。また、決勝戦終了後行われた本大会上位３名とＢＭＸエリート選手３名による「アルティメットマッチ」ではハイレベルな競走が繰り広げられ、会場は大いに盛り上がった。

■第59回大会は、トラック競技を５月14日（月）にグリーンドーム前橋、ＢＭＸ競技を11月11日（日）に日本サイクルスポーツセンターＢＭＸコースで開催した。

トラック競技は、全国から１７５名の精鋭が集結し、己の健脚を競いあった。ケイリンは、浅井康太（三重）が３連勝で初優勝を飾り、１㎞タイムトライアルは坂本貴史（青森）が初優勝を飾った。スプリントにおいては河端朋之（岡山）が、４㎞個人追抜競走では網谷竜次が、エリミネイションレースでは小林潤二（群馬）がそれぞれ初優勝を果たすなど、新勢力の活躍が目立つ大会となった。また、チームスプリントは中部地区・岐阜チーム（松岡篤哉・竹内雄作・森川大輔）が、４㎞団体追抜競走は近畿地区・福井チーム（渡辺航平・渡辺十夢・脇本雄太･鷲田佳史）が優勝した。エキシビションとして行われたガールズレース（なでしこカップ）では中村由香里（東京）が優勝し、加瀬加奈子（新潟）が挑戦した女子１㎞タイムトライアルでは日本記録が生まれた。

ＢＭＸ競技は、全国から41名が参集し行われた。決勝戦は古性優作（大阪）がトップスタートを決めそのまま押し切り、２大会連続優勝を遂げた。決勝戦終了後には、本大会上位３名とＢＭＸエリート選手３名によるアルティメットマッチを行い、多くの声援の中、互いに一歩も譲らないハイレベルな競走をみせ会場を沸かせた。

■第60回大会は、全国にも類を見ないＢＭＸコースを併設した岸和田競輪場の特色を生かし、ＢＭＸ競技を５月18日（土）にサイクルピア岸和田において、トラック競技を５月20日（月）に岸和田競輪場において同時期開催した。

ＢＭＸ競技は、全国から40名を集結し実施した。決勝戦は地元の古性優作（大阪）がトップスタートを決めると独走状態に持ち込み、３連覇を飾った。２着には同じく地元の山本巨樹（大阪）が入り、地元勢の活躍が顕著に出る大会となった。また、全日本ＢＭＸ連盟所属選手によるエキシビジョンレースも行い、ジャンプ等の高度なパフォーマンスに会場は大いに盛り上がった。

トラック競技は、全国から１７９名の選手が参加し熱戦を繰り広げた。ケイリンは、園田匠（福岡）が初優勝を飾り、１㎞タイムトライアルは新田祐大（福島）が通算４度目の優勝を飾った。スプリントは中川誠一郎（熊本）が前大会チャンピオンの河端朋之（岡山）を下し、初優勝を遂げた。また、４㎞個人パーシュートでは地元の岡嶋登（大阪）が､エリミネイションレースでは舛井幹雄（三重）がそれぞれ初優勝を果たした。チームスプリントは中部地区･岐阜チーム（松岡篤哉・竹内雄作・森川大輔）が連覇を果たし、４㎞チームパーシュートは中部地区・岐阜チーム（山口泰生・児玉利文・吉田茂生・川西貴之）が２位と５秒以上の大差をつけて優勝した。エキシビションとして行われたガールズレース（カーネーションカップ）では門脇真由美（大阪）が接戦を制し、優勝した。

祝　第61回 全日本プロ選手権
自転車競技大会

nagasawa®
Racing Cycle

ナガサワレーシングサイクル

代表 長沢義明

〒582-0024 大阪府柏原市田辺 1-5-5 TEL: 0729-77-7047 FAX: 0729-77-9690

大会歴年優勝者記録

回数	場　所	競技種目	記　録	優勝者
第1回	後楽園 （S27.2.16～18） 雨天のため一部中止	5,000m 個人追抜競走	7:03.1	高倉　登
		スクラッチ競走	12.8	高橋文治郎
		1,000m 独走時間競走	1:17.6	高倉　登
第2回	仙　台 （29.3.26～28）	5,000m 個人追抜競走	7:08.6	高倉　登
		スクラッチ競走	12.9	水田　佳博
		1,000m 独走時間競走	1:16.4	松村　憲
		女子 2,000m 速度競走	3:07.9	高倉美代子
第3回	静　岡 （31.6.19）	5,000m 個人追抜競走	6:41.7	中野　泰満
		スクラッチ競走	12.0	松本　勝明
		1,000m 独走時間競走	1:12.2	竹野　暢勇
		女子 2,000m 速度競走	2:45.4	田中　和子
第4回	岸和田 （32.11.7）	5,000m 個人追抜競走	6:53.6	中野　泰満
		スクラッチ競走	13.2	中井　光雄
		1,000m 独走時間競走	1:15.1	小嶺　洋一
		女子 2,000m 速度競走	2:51.4	田中　和子
第5回	小　倉 （33.11.16）	5,000m 個人追抜競走	6:56.9	中野　泰満
		スクラッチ競走	12.9	平林己佐男
		1,000m 独走時間競走	1:15.8	小嶺　洋一
		女子 2,000m 速度競走	2:53.1	田中　和子
第6回	名古屋 （34.6.20～21）	5,000m 個人追抜競走	6:50.2	田中　繁
		スクラッチ競走	13.2	吉田　実
		1,000m 独走時間競走	1:12.8	竹野　暢勇
		女子 2,000m 速度競走	3:02.0	田中　和子
第7回	広　島 （35.5.28～29）	5,000m 個人追抜競走	6:43.4	中野　泰満
		スクラッチ競走	12.0	吉田　実
		1,000m 独走時間競走	1:14.0	中野　泰満
		女子 2,000m 速度競走	3:15.4	立川　玉子
第8回	後楽園 （36.6.10～11）	5,000m 個人追抜競走	6:52.1	中野　泰満
		スクラッチ競走	12.4	加藤　昌
		1,000m 独走時間競走	1:12.3	北村　健
		女子 2,000m 速度競走	2:59.9	松川　光子
第9回	後楽園 （37.6.2～3）	5,000m 個人追抜競走	6:49.8	牛島　博史
		スクラッチ競走	12.8	松本　勝明
		1,000m 独走時間競走	1:12.6	髙原　永伍
		女子 2,000m 速度競走	3:13.9	森　耐子
第10回	名古屋 （38.6.10） 鈴鹿サーキット （38.6.14）	5,000m 個人追抜競走	6:52.9	牛島　博史
		スクラッチ競走	11.9	吉田　実
		1,000m 独走時間競走	1:12.4	松川周次郎
		女子 2,000m 速度競走	3:17.1	中村　金子
		150km ロード競走	4:09:38.7	大島　芳美

回数	場　所	競技種目	記　録	優勝者
第11回	鈴鹿サーキット	5,000m 個人追抜競走	6:52.9	牛島　博史
	（39.5.9）	スクラッチ競走	12.4	中井　光雄
	琵琶湖	1,000m 独走時間競走	1:11.82	松川周次郎
	（39.5.10）	150km ロード競走	4:09:38.7	瀬戸　光義
第12回	一　宮	5,000m 個人追抜競走	6:49.7	町田　克巳
	（40.5.9）	スクラッチ競走	12.05	加藤　　昌
	鈴鹿サーキット	1,000m 独走時間競走	1:11.22	斎藤　勝也
	（40.5.10）	180km ロード競走	5:11:05.5	有賀　久雄
第13回	向日町	5,000m 個人追抜競走	追抜勝	千浜　文男
	（41.5.15）	スクラッチ競走	12.15	平間　誠記
	鈴鹿サーキット	1,000m 独走時間競走	1:14.03	中島　武司
	（41.5.17）	180km ロード競走	5:17:46.5	佐藤　寅雄
第14回	静　岡	5,000m 個人追抜競走	6:48.21	青木　重利
	（42.5.6～7）	スクラッチ競走	12.43	平間　誠記
	富士スピードウェイ	1,000m 独走時間競走	1:11.51	髙原　永伍
	（42.5.9）	180km ロード競走	5:27:42.1	高井　政文
第15回	仙　台	5,000m 個人追抜競走	6:58.4	山藤　浩三
	（43.5.11～12）	スクラッチ競走	12.4	伊藤　　繁
	富士スピードウェイ	1,000m 独走時間競走	1:12.26	班目　秀雄
	（43.5.15）	180km ロード競走	5:53:21.83	大宮　政志
第16回	日本ｻｲｸﾙｽﾎﾟｰﾂｾﾝﾀｰ	5,000m 個人追抜競走	6:33.29	髙原　永伍
	333走路（44.5.10～11）	スクラッチ競走	12.09	工藤夕起夫
	富士スピードウェイ	1,000m 独走時間競走	1:09.35	班目　秀雄
	（44.5.13）	180km ロード競走	5:52:17.84	佐藤　寅雄
第17回	函　館	5,000m 個人追抜競走	6:48.88	髙原　永伍
	（45.5.9～10）	スクラッチ競走	12.13	篠崎　　清
	函館～長万部	1,000m 独走時間競走	1:12.21	班目　秀雄
	（往復）	200km ロード競走	5:52:35.00	阿部　　哲
第18回	高松競輪場	5,000m 個人追抜競走	6:39.51	髙原　永伍
	（46.5.11～12）	スクラッチ競走	12.30	荒川秀之助
	日本ｻｲｸﾙｽﾎﾟｰﾂｾﾝﾀｰ	1,000m 独走時間競走	1:12.05	清水　　浩
	（46.10.31）	100km ロード競走	3:30:15.08	寺本　弘志
第19回	玉野競輪場	5,000m 個人追抜競走	6:55.92	髙原　永伍
	（47.5.3～4）	スクラッチ競走	12.43	荒川秀之助
	山口県長門	1,000m 独走時間競走	1:11.50	班目　秀雄
	（47.5.8）	140km ロード競走	3:46:25.00	佐藤　寅雄

回数	場　所	競技種目	記　録	優勝者
第20回	佐世保競輪場 （48.5.2～3） 佐世保～今福（往復） （48.4.9）	スクラッチ競走 5,000m 個人追抜競走 1,000m 独走時間競走 ドミフォン競走 135km ロード競走	11.65 6:31.80 1:10.57 77 周 3:48:15.40	荒川秀之助 加藤　善行 阿部　良二 (誘)佐藤　寅雄 (選)佐藤　　正 加藤　善行
第21回	取手競輪場 （49.4.20～21）	スクラッチ競走 5,000m 個人追抜競走 1,000m 独走時間競走 ドミフォン競走	12.68 7:01.00 1:12.81 77 周	荒川秀之助 加藤　善行 阿部　良二 (誘)佐藤　寅雄 (選)佐藤　　正
第22回	福井競輪場 （50.5.17～18） 和田中～九頭竜ダム （往復） （50.5.22）	スクラッチ競走 5,000m 個人追抜競走 1,000m 独走時間競走 ドミフォン競走 130km ロード競走	11.61 6:36.31 1:10.80 104 周 3:22:01.40	岩崎　誠一 川田不二男 高橋　健二 (誘)山本　義雄 (選)片山　弘臣 山本　和正
第23回	熊本競輪場 （51.5.15～16） 阿蘇山周辺 （51.5.20）	スクラッチ競走 5,000m 個人追抜競走 1,000m 独走時間競走 ドミフォン競走 130km ロード競走	11.96 6:33.42 1:10.75 50周(22分) 3:39:26.50	阿部　良二 川田不二男 菅田　順和 (誘)佐藤　寅雄 (選)加藤　善行 宮地　一夫
第24回	高知競輪場 （52.5.14～15） 高知市～室戸岬 （往復） （52.5.19）	スクラッチ競走 5,000m 個人追抜競走 1,000m 独走時間競走 ドミフォン競走 180km ロード競走	10.75 6:45.10 1:10.59 44周(30分) 4:24:03.00	中野　浩一 加藤　善行 菅田　順和 (誘)佐藤　寅雄 (選)佐藤　彰一 河渕　悦芳
第25回	前橋競輪場 （53.5.13～14） 榛名山周辺 （53.5.18）	スクラッチ競走 5,000m 個人追抜競走 1,000m 独走時間競走 ドミフォン競走 125km ロード競走	11.59 6:46.39 1:08.34 79周(30分) 3:14:04.00	中野　浩一 服部　雅春 高橋　健二 (誘)佐藤　寅雄 (選)佐藤　彰一 宮一　　透
第26回	西宮競輪場 （54.5.12～13） 姫路城～戸倉折返し （54.5.17）	スクラッチ競走 ケイリンレース 5,000m 個人追抜競走 1,000m 独走時間競走 ドミフォン競走 145km ロード競走	11.53 2:50.58 6:28.62 1:10.78 97周(30分) 3:10:05.00	中野　浩一 高橋　健二 服部　雅春 高橋　健二 (誘)佐藤　寅雄 (選)岡田　富夫 鷲田　善一

回数	場　所	競技種目	記　録	優勝者
第27回	宇都宮競輪場 （55.5.10～11） 栃木県庁前～鶏頂山 周回～宇都宮競輪場 （55.5.15）	スクラッチ競走	11.37	中野　浩一
		ケイリンレース	2:45.35	菅田　順和
		5,000m 個人追抜競走	6:23.06	町島　洋一
		1,000m 独走時間競走	1:07.97	村岡　和久
		ドミフォン競走	60 周	(誘)保坂　晴稔
				(選)坂本　儀明
		152.5km ロード競走	4:16:44.00	緑川代志昭
第28回	岸和田競輪場 （56.5.9～10） 三重鈴鹿サーキット （56.5.13）	スクラッチ競走	10.92	中野　浩一
		ケイリンレース	2:07.21	尾池　孝介
		5,000m 個人追抜競走	9周目追抜勝	町島　洋一
		1,000m 独走時間競走	1:07.92	高橋　健二
		ドミフォン競走（30km）	25:55	(誘)佐藤　寅雄
				(選)布田　英明
		150km ロード競走	4:01:22.38	玉手　　裕
第29回	平競輪場 （57.5.8）	スクラッチ競走	10.82	菅田　順和
		ケイリンレース	2:03.46	藤巻　　昇
		5,000m 個人追抜競走	6周目追抜勝	町島　洋一
		1,000m 独走時間競走	1:08.48	野田　　正
		ポイントレース	34 点	宮本　万裕
		ドミフォン競走（30km）	26:47.65	(誘)庭野　博文
				(選)中川　聡志
第30回	函館競輪場 （58.5.14～15） 群馬ｻｲｸﾙｽﾎﾟｰﾂｾﾝﾀｰ （58.10.2）	スクラッチ競走	10.94	中野　浩一
		ケイリンレース	2:04.66	山口　健治
		5,000m 個人追抜競走	6:37.80	岡堀　　勉
		1,000m 独走時間競走	1:08.44	金田　隆博
		ポイントレース	35 点	田村　剛男
		ドミフォン競走（30km）	28:43.65	(誘)庭野　博文
				(選)中川　聡志
		120km ロード競走	3:19:26.27	藤並　克則
第31回	三重鈴鹿サーキット （59.5.9） 向日町競輪場 （59.5.12～13）	スクラッチ競走	10.63	中野　浩一
		ケイリンレース	2:09.78	野田　　正
		5,000m 個人追抜競走	6:27.29	田中　祥之
		1,000m 独走時間競走	1:07.69	本田　晴美
		ポイントレース	23 点	伊木　隆司
		ドミフォン競走（30km）	29:06.42	(誘)庭野　博文
				(選)中川　聡志
		ロードレース（120km）	3:06:53.64	田村　幸男

回数	場　所	競技種目	記　録	優勝者
第32回	松山競輪場 （60.5.11～12）	スプリント競走 （スクラッチ呼称変更） ケイリンレース 5,000m 個人追抜競走 1,000m 独走時間競走 ポイントレース ドミフォン競走（30km）	11.25 2:49.83 6:21.78 1:06.48 57 点 27:12.75	松枝　義幸 井上　茂徳 田中　祥之 滝澤　正光 榎田　浩二 (誘)庭野　博文 (選)中川　聡志
第33回	富山競輪場 （61.5.10～11） 群馬ｻｲｸﾙｽﾎﾟｰﾂｾﾝﾀｰ （61.5.14）	スプリント競走 ケイリンレース 5,000m 個人追抜競走 1,000m 独走時間競走 ポイントレース ドミフォン競走（30km） ロードレース（120km）	11.09 2:41.95 3周目追抜勝 1:05.72 36 点 28:23 3:17:49.14	俵　　信之 高橋　健二 田中　祥之 本田　晴美 鈴木　　誠 (誘)庭野　博文 (選)中川　聡志 西川　達夫
第34回	熊本競輪場 （62.5.16～17） 群馬ｻｲｸﾙｽﾎﾟｰﾂｾﾝﾀｰ （62.5.20）	スプリント競走 ケイリンレース 5,000m 個人追抜競走 1,000m 独走時間競走 ポイントレース ドミフォン競走 ロードレース（120km）	11.02 2:53.91 6:21.21 1:07.89 50 点 3:18:16.20	俵　　信之 井上　茂徳 藤村　照彦 白石　　護 佐藤　　仁 雨天中止 斎藤　　勝
第35回	弥彦競輪場 （63.5.14～15） 群馬ｻｲｸﾙｽﾎﾟｰﾂｾﾝﾀｰ （63.5.18）	スプリント競走 ケイリンレース 5,000m 個人追抜競走 1,000m 独走時間競走 ポイントレース ドミフォン競走（30km） ロードレース（120km）	11.24 2:38.41 6:15.08 1:07.05 63 点 28:05.72 3:22:14.12	坂本　英一 小門　洋一 堀端　義治 和田　誠吾 榎田　浩二 (誘)庭野　博文 (選)中川　聡志 藤谷　　昇
第36回	東京ドーム （H1.5.12～14） 群馬ｻｲｸﾙｽﾎﾟｰﾂｾﾝﾀｰ （H1.5.17)	スプリント競走 ケイリンレース 5,000m 個人追抜競走 1,000m 独走時間競走 ポイントレース ドミフォン競走（30km） ロードレース（210km）	11.27 2:39.37 6:11.75 1:07.89 48 点 27:29.81 6:07:12.72	俵　　信之 鈴木　　誠 飯島　規之 内林　久徳 窓場加乃敏 (誘)藤野　淳司 (選)村上　英夫 藤谷　　昇

回数	場　所	競技種目	記　録	優勝者
第37回	前橋競輪場 （2.5.12～13） 群馬ｻｲｸﾙｽﾎﾟｰﾂｾﾝﾀｰ （2.5.16）	スプリント競走	11.56	坂本　英一
		ケイリンレース	2:43.54	俵　　信之
		5,000m 個人追抜競走	6:20.88	飯島　規之
		1,000m 独走時間競走	1:06.08	三宅　　伸
		ポイントレース	45 点	平田　崇昭
		ドミフォン競走（30km）	27:55.35	(誘)藤野　淳司
				(選)村上　英夫
		ロードレース（210km）	5:50:57.16	浅田　　顕
第38回	前橋競輪場 （グリーンドーム前橋） （3.5.10～11） 群馬ｻｲｸﾙｽﾎﾟｰﾂｾﾝﾀｰ （3.5.15）	スプリント競走	12.81	坂本　英一
		ケイリンレース	2:51.87	吉岡　稔真
		5,000m 個人追抜競走	9周目追抜勝	飯島　規之
		1,000m 独走時間競走	1:05.44	吉岡　稔真
		ポイントレース	33 点	安原　昌弘
		ドミフォン競走（30km）	26:42.12	(誘)卜田　志郎
				(選)榎田　浩二
		ロードレース（180km）	4:52:39.12	三浦　恭資
第39回	前橋競輪場 （グリーンドーム前橋） （4.5.15～16） 群馬ｻｲｸﾙｽﾎﾟｰﾂｾﾝﾀｰ （4.5.14）	スプリント競走	10.93	松井　英幸
		ケイリンレース	2:37.01	吉岡　稔真
		5,000m 個人追抜競走	5:59.69	飯島　規之
		1,000m 独走時間競走	1:05.53	清水　敏一
		ポイントレース	18 点	斎藤　　勝
		ドミフォン競走（30km）	27:07.88	(誘)渡辺　孝夫
				(選)榎田　浩二
		ロードレース（180km）	5:01:40.58	三浦　恭資
第40回	前橋競輪場 （グリーンドーム前橋） （5.5.20～21） 群馬ｻｲｸﾙｽﾎﾟｰﾂｾﾝﾀｰ （5.4.21）	スプリント競走	11.09	有坂　直樹
		ケイリンレース		山田　裕仁
		4,000m 個人追抜競走	4:47.91	飯島　規之
		1,000m 独走時間競走	1:04.56	稲村　成浩
		ポイントレース	33 点	安原　昌弘
		ドミフォン競走（30km）	27:21.46	(誘)山崎　幸悦
				(選)佐々木一昭
		ロードレース（180km）	4:49:06.20	藤野　智一
第41回	熊本競輪場 （6.5.14～15） 大分阿蘇ﾚｰｼﾝｸﾞﾊﾟｰｸ （6.4.20）	スプリント競走		海田　和裕
		ケイリンレース		吉岡　稔真
		4,000m 個人追抜競走	4:48.43	飯島　規之
		1,000m 独走時間競走	1:05.23	稲村　成浩
		ポイントレース	24 点	斎藤　　勝
		ドミフォン競走（30km）	28:17.03	(誘)庭野　博文
				(選)笹川　竜治
		ロードレース（186.96km）	5:20:15.33	阿部　良之(ｱﾏ)

回数	場　所	競技種目	記　録	優勝者
第42回	名古屋競輪場 （7.5.14～15） 磐越自動車道 （7.7.16）	スプリント競走 ケイリンレース 4,000m 個人追抜競走 1,000m 独走時間競走 ポイントレース ロードレース（126km）	 4:44.35 1:04.72 16 点 3:05:54.33	北川　智博 佐々木昭彦 飯島　規之 神山雄一郎 窓場加乃敏 橋川　　健
第43回	いわき平競輪場 （8.5.12～13） 群馬ｻｲｸﾙｽﾎﾟｰﾂｾﾝﾀｰ （8.4.17）	スプリント ケイリン 4km 個人追抜競走 1km タイムトライアル ポイントレース ロードレース（210km）	 4:46.051 1:03.639 19 点 5:34:31.42	北川　智博 本田　　博 野井　正紀 十文字貴信 磯野　永悟 住田　　修(ｱﾏ)
第44回	弥彦競輪場 （9.5.11～12） 群馬ｻｲｸﾙｽﾎﾟｰﾂｾﾝﾀｰ （9.4.23）	スプリント ケイリン 4km 個人追抜競走 1km タイムトライアル ポイントレース ロードレース（180km）	 4:42.023 1:04.214 22 点 4:55:02.18	北川　智博 本田　　博 飯島　規之 十文字貴信 鰐淵　正利 阿部　良之
第45回	千葉競輪場 （10.5.10～11） 群馬ｻｲｸﾙｽﾎﾟｰﾂｾﾝﾀｰ （10.4.22）	スプリント ケイリン 4km 個人追抜競走 1km タイムトライアル ポイントレース ロードレース（180km）	 4:40.505 1:04.771 31 点 4:37:53.44	北川　智博 高木　隆弘 飯島　規之 十文字貴信 吉井　功治(ｱﾏ) 橋川　　健
第46回	広島競輪場 （11.5.9～10） 広島中央森林公園 （11.4.25） ※第２回全日本自転車 競技選手権大会と共催	スプリント ケイリン 4km 個人追抜競走 1km タイムトライアル ポイントレース オリンピックスプリント ロードレース（180km）	 4:48.608 1:04.462 38 点 4:40:48.00	山田　英樹 神山雄一郎 飯島　規之 稲村　成浩 吉井　功治 関東地区 （落合、大井、十文字） 藤野　智一
第47回	弥彦競輪場 （12.5.14～15） 広島中央森林公園 （12.6.10）	スプリント ケイリン 4km 個人追抜競走 1km タイムトライアル ポイントレース 4km 団体追抜競走 オリンピックスプリント ロードレース（84km）	 4:48.770 1:05.235 13 点 4:35.762 1:16.522 2:20:22.85	金子　貴志 山田　裕仁 飯島　規之 伏見　俊昭 狩野　智也 近畿地区 （窓場、久米、村上、岩崎） 関東地区 （尾崎、小林、稲村） 飯島　規之

回数	場　所	競技種目	記　録	優勝者
第48回	一宮競輪場 （13.5.12～13） 北海道大滝村総合 運動公園特設コース （13.6.9）	スプリント ケイリン 4km 個人追抜競走 1km タイムトライアル ポイントレース 4km 団体追抜競走 オリンピックスプリント ロードレース（90.3km）		金子　貴志 内林　久徳 飯島　規之 伏見　俊昭 内藤　宣彦 南関東地区 （遠藤、川越、梶山、畠山） 関東地区 （坂本、神山、幸田） 飯島　規之
第49回	京王閣競輪場 （14.5.11～12） ツインリンクもてぎ （14.6.11）	スプリント ケイリン 4km 個人追抜競走 1km タイムトライアル ポイントレース 4km 団体追抜競走 オリンピックスプリント ロードレース（96km）	 4:52.721 1:04.550 42 点 4:36.497 1:16.507 2:23:58.02	前反祐一郎 斉藤登志信 佐々木孝司 伏見　俊昭 大塚　英伸 中部地区 （坂上、北野、坂上、北野） 関東地区 （坂本、神山、幸田） 飯島　規之
第50回	青森競輪場 （15.5.10～11） 青森市・合子沢 公園周回コース （15.6.18）	スプリント ケイリン 4km 個人追抜競走 1km タイムトライアル ポイントレース 4km 団体追抜競走 チームスプリント ロードレース（79.2km）	 4:37.627 1:04.541 15 点 4:39.636 1:16.308 2:26:19.23	金子　貴志 吉岡　稔真 内田　　慶 荒井　崇博 山中　　猛 近畿地区 （桑野、久米、岩崎、山岸） 関東地区 （稲村、小林、兵藤） 飯島　規之
第51回	四日市競輪場 （16.5.9） 伊勢市・サンアリーナ 周辺コース （16.6.16）	スプリント ケイリン 4km 個人追抜競走 1km タイムトライアル ポイントレース 4km 団体追抜競走 チームスプリント ロードレース（99km）	 4:43.043 1:04.944 雨天中止の為 前年度優勝者1位 4:39.22 1:15.458 2:24:23.89	井上　昌己 小嶋　敬二 内田　　慶 中川誠一郎 山中　　猛 関東地区 （吉田、小沼、白岩、太田） 関東地区 （稲村、小林、兵藤） 飯島　規之

回数	場　所	競技種目	記　録	優勝者
第52回	松戸競輪場 （17.5.23） 伊豆市・日本CSC 5kmサーキットコース （17.9.29）	スプリント		成田　和也
		ケイリン		神山雄一郎
		1kmタイムトライアル	1:05.450	村上　博幸
		4km個人追抜競走	4:50.202	内田　　慶
		4km団体追抜競走	4:32.016	近畿地区 （窓場、久米、岩崎、山岸）
		ポイントレース	14点	小松　剛之
		チームスプリント	1:02.129	四国地区 （渡部、濱田、岡本）
		ロードレース（60km）	1:51:38.51	飯島　規之
第53回	松山競輪場 （18.5.15） 伊豆市・日本CSC 5kmサーキットコース （18.9.28）	スプリント		金子　貴志
		ケイリン		武田　豊樹
		1kmタイムトライアル	1:05.082	矢口啓一郎
		4km個人追抜競走	4:42.044	内田　　慶
		4km団体追抜競走	4:29.322	近畿地区 （窓場、久米、岩崎、山岸）
		ポイントレース	37点	四宮　哲郎
		チームスプリント	1:14.923	四国地区 （渡部、濱田、岡本）
		ロードレース（60km）	1:55:25.12	飯島　規之
第54回	いわき平競輪場 （19.5.13） 和歌山県 旧南紀白浜空港跡地 （19.9.26）	スプリント		渡邉　一成
		ケイリン		武田　豊樹
		1kmタイムトライアル	1:03:156	大森　慶一
		4km個人追抜競走	4:33:976	内田　　慶
		4km団体追抜競走	4:29:313	九州地区 （柊元、梶山、白水、田中）
		ポイントレース	22点	岡村　　潤
		チームスプリント	1:14:763	北日本地区 （伏見、佐藤、佐々木）
		ロードレース（81km）	2:01:15.41	中井　健二
第55回	奈良競輪場 （20.5.11） 茨城県 国営ひたち海浜公園内 BMXコース （20.10.5）	スプリント		渡邉　一成
		ケイリン		武田　豊樹
		1kmタイムトライアル	1:04:728	稲垣　裕之
		4km個人追抜競走	4:46:661	内田　　慶
		4km団体追抜競走	4:32:821	関東地区 （田中、手島、石川、篠原）
		ポイントレース	25点	四宮　哲郎
		チームスプリント	1:01:845	四国地区 （濱田、渡部、岡本）
		BMX		稲川　翔

回数	場　所	競技種目	記　録	優勝者
第56回	花月園競輪場 （21.5.17） 伊豆市・日本CSC BMXコース （21.11.8）	スプリント ケイリン 1kmタイムトライアル 4km個人追抜競走 4km団体追抜競走 ポイントレース チームスプリント BMX	 1:04.933 4:46.527 4:33.910 26点 1:14.886	北津留　翼 武田　豊樹 新田　祐大 飯島　規之 九州地区 （鈴木、小岩、加藤、安東） 倉野隆太郎 中部地区 （柴崎淳、浅井、柴崎俊） 稲川　　翔
第57回	函館競輪場 （22.5.16） 伊豆市・日本ＣＳＣ ＢＭＸコース （22.11.7）	スプリント ケイリン １kmタイムトライアル ４km個人追抜競走 ４km団体追抜競走 ポイントレース チームスプリント ＢＭＸ	 1:05.574 5:01.303 4:35.607 48点 1:17.178	北津留　翼 村上　博幸 新田　祐大 山下　一輝 中部地区 （坂上忠、岩本、坂上樹、辻） 小林　潤二 中部地区 （宮越、笹倉、重倉） 西岡　拓朗
第58回	防府競輪場 （23.5.16） 伊豆市・日本ＣＳＣ ＢＭＸコース （23.11.13）	スプリント ケイリン １kmタイムトライアル ４km個人追抜競走 ４km団体追抜競走 エリミネイションレース チームスプリント ＢＭＸ	 1:04.648 4:51.377 4:29.67 1:02.26	北津留　翼 武田　豊樹 新田　祐大 山下　一輝 九州地区 （安東、小岩、加藤、利根） 中曽　直彦 北日本地区 （鈴木、伏見、佐藤） 古性　優作
第59回	グリーンドーム前橋 （24.5.14） 伊豆市・日本ＣＳＣ ＢＭＸコース （24.11.11）	スプリント ケイリン １kmタイムトライアル ４km個人追抜競走 ４km団体追抜競走 エリミネイションレース チームスプリント ＢＭＸ	 1:05.302 4:44.406 4:24.992 1:02.230	河端　朋之 浅井　康太 坂本　貴史 網谷　竜次 近畿地区 （渡辺航、渡辺十、脇本、鷲田） 小林　潤二 中部地区 （松岡、竹内、森川） 古性　優作

回数	場　所	競技種目	記　録	優勝者
第60回	岸和田競輪場 （25.5.20） サイクルピア岸和田 （25.5.18）	スプリント		中川誠一郎
		ケイリン		園田　　匠
		１km タイムトライアル	1:03.885	新田　祐大
		４km 個人パーシュート	4:43.641	岡嶋　　登
		４km チームパーシュート	4:26.149	中部地区 （山口、児玉、吉田、川西）
		エリミネイションレース		舛井　幹雄
		チームスプリント	1:14.329	中部地区 （松岡、竹内、森川）
		ＢＭＸ		古性　優作

【男子エリート記録 一覧表】

種　目	種　別	記　録	氏　名（所属）	大会名・開催地・開催日
200 mフライング タイムトライアル	世界記録	9 秒 347	FRANCOIS PERVIS （フランス）	2013 ワールドカップ第 2 戦 メキシコ・アグアスカリエンテス 2013.12.6
	日本記録	9 秒 702	中川　誠一郎 （熊本）	2012-2013 ワールドカップ第3戦 メキシコ・アグアスカリエンテス 2013.1.19
	全プロ大会記録	10 秒 207	中川　誠一郎 （熊本）	第 60 回全プロ大会 岸和田競輪場 2013.5.20
1km タイムトライアル	世界記録	56 秒 303	FRANCOIS PERVIS （フランス）	2013 ワールドカップ第 2 戦 メキシコ・アグアスカリエンテス 2013.12.7
	日本記録	1 分 00 秒 017	中川　誠一郎 （熊本）	2013 ワールドカップ第 2 戦 メキシコ・アグアスカリエンテス 2013.12.7
	全プロ大会記録	1 分 03 秒 618	大森　慶一 （北海道）	第 54 回全プロ大会 いわき平競輪場 2007.5.13
4km 個人 パーシュート	世界記録	4 分 10 秒 534	JACK BOBRIDGE （オーストラリア）	2011 オーストラリア選手権 オーストラリア・シドニー 2011.2.2
	日本記録	4 分 30 秒 441	橋本　英也 （岐阜）	第 15 回全日本自転車競技選手権大会 伊豆ベロドローム 2012.8.25
	全プロ大会記録	4 分 33 秒 976	内田　　慶 （栃木）	第 54 回全プロ大会 いわき平競輪場 2007.5.13
4km チーム パーシュート	世界記録	3 分 51 秒 659	[イギリスチーム] EDWARD CLANCY・GERAINT THOMAS STEVEN BURKE・PETER KENNAUGH	ロンドンオリンピック イギリス・ロンドン 2012.8.3
	日本記録	4 分 11 秒 103	[日本チーム] 窪木一茂 (和歌山)・一丸尚伍 (大分) 橋本英也 (岐阜)・伊藤和輝 (東京)	第 33 回アジア自転車競技選手権大会 インド・ニューデリー 2013.3.9
	全プロ大会記録	4 分 29 秒 313	[九州地区] 柊元則彦 (福岡)・梶山裕次郎 (福岡) 白水　洵 (福岡)・田中孝法 (福岡)	第 54 回全プロ大会 いわき平競輪場 2007.5.13
チームスプリント　250 m （周長）	日本記録	43 秒 092	[CCTチーム] 河端朋之 (岡山)・渡邉一成 (福島) 中川誠一郎（熊本）	2013 ワールドカップ第2戦 メキシコ・アグアスカリエンテス 2013.12.5
チームスプリント　333 m （周長）	日本記録	59 秒 750	[日本チーム] 濱田浩司 (愛媛)・大森慶一 (北海道) 荒井崇博（佐賀）	2001 ワールドカップ第4戦 メキシコ・メキシコシティー 2001.8.12
チームスプリント　400 m （周長）	日本記録	1 分 13 秒 668	[日本チーム] 浅井康太 (三重)・柴崎　淳 (三重) 深谷知弘（愛知）	ACCトラックアジアカップ 2009 花月園競輪場 2009.5.30
チームスプリント　500 m （周長）	日本記録	1 分 36 秒 160	[関東地区] 落合　豊 (茨城)・大井　崇 (茨城) 十文字貴信（茨城）	第 45 回全プロ大会 千葉競輪場 1998.5.11

【女子エリート記録 一覧表】

種　目	種　別	記　録	氏　名（所属）	大会名・開催地・開催日
200 mフライング タイムトライアル	世界記録	10 秒 384	KRISTINA VOGEL （ドイツ）	2013 ワールドカップ第 2 戦 メキシコ・アグアスカリエンテス 2013.12.7
	日本記録	11 秒 014	前田　佳代乃 （鹿児島）	2012-2013 ワールドカップ第3戦 メキシコ・アグアスカリエンテス 2013.1.18
500 m タイムトライアル	世界記録	29 秒 481	OLGA STRELTSOVA （ロシア）	RECORDS DE RUSSIA ロシア・モスクワ 2011.5.29
	日本記録	34 秒 882	前田　佳代乃 （京都）	2013 ワールドカップ第2戦 メキシコ・アグアスカリエンテス 2013.12.6
1km タイムトライアル	日本記録	1 分 10 秒 053	加瀬　加奈子 （新潟）	第 59 回全プロ大会 グリーンドーム前橋 2012.5.14
3km 個人 パーシュート	世界記録	3 分 22 秒 269	SARAH HAMMER （アメリカ）	RECORDS DE AMERICA メキシコ・アグアスカリエンテス 2010.5.11
	日本記録	3 分 42 秒 145	加瀬　加奈子 （新潟）	2012 UCI世界選手権大会 オーストラリア・メルボルン 2012.4.7
3km チーム パーシュート	世界記録	3 分 14 秒 051	[イギリスチーム] DANIELLE KING・LAURA TROTT JOANNA ROWSELL	ロンドンオリンピック イギリス・ロンドン 2012.8.4
	日本記録	3 分 31 秒 165	[日本チーム] 加瀬加奈子 (新潟)・田畑真紀 (静岡) 上野みなみ (青森)	2012 UCI世界選手権大会 オーストラリア・メルボルン 2012.4.5
4km チーム パーシュート	世界記録	4 分 16 秒 552	[イギリスチーム] KATIE ARCHIBALD・ELINOR BARKER DANIELLE KING・JOANNA ROWSEL	2013 ワールドカップ第 2 戦 メキシコ・アグアスカリエンテス 2013.12.5
	日本記録	4 分 42 秒 433	[日本チーム] 上野みなみ（青森）・塚越さくら（鹿児島） 小島蓉子（千葉）・加瀬加奈子 (新潟)	第 33 回アジア自転車競技選手権大会 インド・ニューデリー 2013.3.9
チームスプリント　250 m （周長）	日本記録	34 秒 535	[CCTチーム] 石井　寛子（東京） 前田　佳代乃（京都）	2013 ワールドカップ第2戦 メキシコ・アグアスカリエンテス 2013.12.5
チームスプリント　333 m （周長）	日本記録	46 秒 927	[強化 C チーム] 石井　貴子（千葉） 小林　優香（福岡）	第 83 回全日本自転車競技選手権大会トラック 泉崎国際サイクルスタジアム 2014.4.19
チームスプリント　400 m （周長）	日本記録	56 秒 333	[日本競輪学校Aチーム] 小林　優香（佐賀） 石井　貴子（東京）	第 68 回国民体育大会自転車競技会 立川競輪場 2013.10.2

High Performance
Mineral Water

すべてのスポーツマンのために
ハイパフォーマンス飲料水
「ファインアクア」

ファインアクアは水の分子構造が小さい「ミクロクラスター」。体内への吸収が良く運動時の水分補給に最適です。

日本のトップアスリートが飲んでいます。

●神山雄一郎（競輪選手）
1996年　アトランタオリンピック出場
2000年　シドニーオリンピック出場
特別競輪全冠制覇

●伏見俊昭　（競輪選手）
2001年　KEIRINグランプリ 優勝
2004年　アテネオリンピックチームスプリント銀メダル
2004年　G1日本選手権優勝

●後閑信一　（競輪選手）
第8回/第14回　共同通信社杯優勝
平成17年　G1競輪祭優勝

（model:神山雄一郎）

＜アテネオリンピック女子レスリング日本代表選手＞
●伊調　馨　63kg級金メダル
●伊調千春　48kg級銀メダル
●吉田沙保里　55kg級金メダル

＜ソルトレイクシティーオリンピックスピードスケート日本代表選手＞
●清水宏保　男子500m銀メダル
●武田豊樹　男子500m8位入賞

ボクシングWBC世界フェザー級チャンピオン
●越本隆志

＜メーカー希望小売価格（税込）＞

●ファインアクア		500ml	150円
	1ケース	24本入	3,600円
		2L	350円
	1ケース	6本入	2,100円
●ファインアクア（プレミアム）		500ml	210円
	1ケース	24本入	5,040円
		2L	500円
	1ケース	6本入	3,000円

株式会社 プラム・サービス
〒136-0076 東京都江東区南砂7-6-4　0120-156-773

実感してください。
天然活性水素水のチカラ。

地球からの贈りもの

日田天領水

日田天領水２L(10本入)
メーカー希望小売価格 税込 3,675円

日田天領水500ml(24本入)
メーカー希望小売価格 税込 3,780円

日田天領水350ml(24本入)
メーカー希望小売価格 税込 2,772円

日田天領水のお茶500ml(24本入)
メーカー希望小売価格 税込 4,032円

日田天領水２0L(1個)
メーカー希望小売価格 税込 2,835円

日田天領水12L(2個組)
メーカー希望小売価格 税込 3,150円

日田天領水10L(2個組)
メーカー希望小売価格 税込 3,045円

日田天領水食物繊維入りのお茶300g(24本入)
メーカー希望小売価格 税込 4,032円

モンドセレクション 最高金賞受賞
※500mlペットボトルにて
3年連続(2006〜2008年)受賞

iTQi(国際味覚品質審査機構)審査会 優秀味覚賞受賞
※500mlペットボトルにて
4年連続(2005〜2008年)受賞

日田天領水は日本をはじめ、世界の人々の健康を願っています。

株式会社 日田天領水

フリーダイヤル TEL.0120−0973−32 FAX.0120−0701−32

〒877-0074 大分県日田市中ノ島町647 TEL.0973−22−7777 FAX.0973−27−6666

http://www.hitatenryosui.co.jp

競技日程

【平成26年5月19日（月）】

於：取手競輪場

	種　　目		レース数	開始時間	所要時間
1	スプリント予選　200mTT	Sprint, Qualifying	25	9:30	40 分
2	男子ケイリン予選	Keirin, Qualifying	5	10:10	25 分
3	アザレアカップ予選（1st）	Azalea Cup, Qualifying	2	10:35	10 分
4	4km チームパーシュート決勝	Team Pursuit, Final	4	10:45	30 分
5	スプリント1／8決勝	Sprint, 1/8 Final	8	11:15	30 分
	◎開会式　日競選表彰	Opening Ceremony		11:45	25 分
	◎ファンサービス	Fan Service		12:10	30 分
6	エリミネイションレース決勝	Elimination Race, Final	1	12:40	30 分
7	スプリント1／4決勝	Sprint, 1/4 Final	4	13:10	15 分
8	1km タイムトライアル決勝	1km Time Traial, Final	16	13:25	60 分
9	男子ケイリン1／2決勝	Keirin, 1/2 Final	3	14:25	15 分
10	アザレアカップ予選（2nd）	Azalea Cup, Qualifying	2	14:40	10 分
	◎表彰式（4km TP、エリミネイション、1Km TT）Victry Ceremony			14:50	15 分
11	スプリント1／2決勝（1回戦）	Sprint, 1/2 Final, 1st Race	2	15:05	10 分
12	チームスプリント決勝	Team Sprint, Final	8	15:15	40 分
13	スプリント1／2決勝（2回戦）	Sprint, 1/2 Final, 2nd Race	2	15:55	10 分
14	4km 個人パーシュート決勝	Individual Pursuit, Final	5	16:05	35 分
15	スプリント1／2決勝（3回戦）	Sprint, 1/2 Final, Dicider	2	16:40	10 分
	◎表彰式（チームスプリント、4km IP）Victry Ceremony			16:50	10 分
16	スプリント決勝（1回戦）	Sprint, Final, 1st Race	1	17:00	05 分
17	スプリント3・4位決定戦	Sprint, Final for Bronze	1	17:05	05 分
18	アザレアカップ決勝	Azalea Cup, Final	1	17:10	05 分
19	スプリント決勝（2回戦）	Sprint, Final, 2nd Race	1	17:15	05 分
	◎表彰式（アザレアカップ）Victry Ceremony			17:20	10 分
20	男子ケイリン　決勝	Keirin, Final	1	17:30	10 分
21	スプリント　決勝（3回戦）	Sprint Final, Decider	1	17:40	05 分
	◎表彰式（スプリント、男子ケイリン）Victry Ceremony			17:45	10 分
	◎閉会式	Closing Ceremony		17:55	05 分

※競技プログラムは変更になる場合があります。

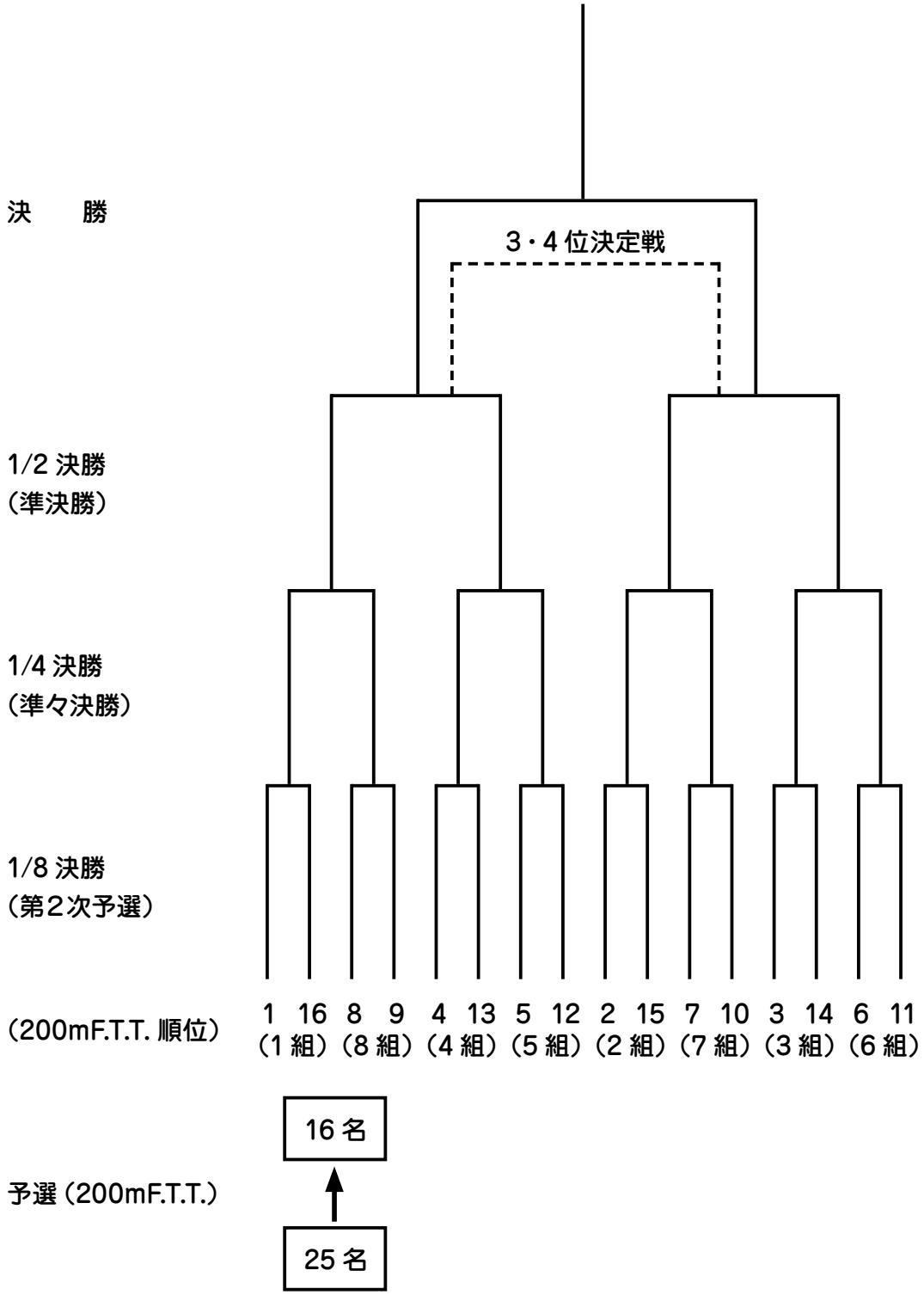
トラック競技

平成 26 年 5 月 19 日（月）
9:30 ～ 18:00

1 スプリント 予選 200mF.T.T. Sprint, Qualifying（25 名）9:30 ～ 10:10

上位タイム 16 名が 1/8 決勝へ進出

ｽﾀｰﾄ順	氏　名	府　県	上がりタイム	順 位
1.		（　　）	秒	（　位）
2.		（　　）	秒	（　位）
3.		（　　）	秒	（　位）
4.		（　　）	秒	（　位）
5.		（　　）	秒	（　位）
6.		（　　）	秒	（　位）
7.		（　　）	秒	（　位）
8.		（　　）	秒	（　位）
9.		（　　）	秒	（　位）
10.		（　　）	秒	（　位）
11.		（　　）	秒	（　位）
12.		（　　）	秒	（　位）
13.		（　　）	秒	（　位）
14.		（　　）	秒	（　位）
15.		（　　）	秒	（　位）
16.		（　　）	秒	（　位）
17.		（　　）	秒	（　位）
18.		（　　）	秒	（　位）
19.		（　　）	秒	（　位）
20.		（　　）	秒	（　位）
21.		（　　）	秒	（　位）
22.		（　　）	秒	（　位）
23.		（　　）	秒	（　位）
24.		（　　）	秒	（　位）
25.		（　　）	秒	（　位）


決　　勝
3・4 位決定戦
1/2 決勝
（準決勝）
1/4 決勝
（準々決勝）
1/8 決勝
（第２次予選）
（200mF.T.T. 順位）
1 16 8 9 4 13 5 12 2 15 7 10 3 14 6 11
（1 組）（8 組）（4 組）（5 組）（2 組）（7 組）（3 組）（6 組）
16 名
予選（200mF.T.T.）
25 名

2 男子ケイリン 予選 Keirin, Qualifying（5 レース） 10:10 ～ 10:35

第 1 組

	氏　名	府　県	順 位			
1.		（　　）	（　　位）	総タイム	分	秒
2.		（　　）	（　　位）	上がりタイム		秒
3.		（　　）	（　　位）	決まり手		
4.		（　　）	（　　位）			
5.		（　　）	（　　位）			
6.		（　　）	（　　位）			
7.		（　　）	（　　位）			
8.		（　　）	（　　位）			
9.		（　　）	（　　位）			

第 2 組

	氏　名	府　県	順 位			
1.		（　　）	（　　位）	総タイム	分	秒
2.		（　　）	（　　位）	上がりタイム		秒
3.		（　　）	（　　位）	決まり手		
4.		（　　）	（　　位）			
5.		（　　）	（　　位）			
6.		（　　）	（　　位）			
7.		（　　）	（　　位）			
8.		（　　）	（　　位）			
9.		（　　）	（　　位）			

第 3 組

	氏　名	府　県	順 位			
1.		（　　）	（　　位）	総タイム	分	秒
2.		（　　）	（　　位）	上がりタイム		秒
3.		（　　）	（　　位）	決まり手		
4.		（　　）	（　　位）			
5.		（　　）	（　　位）			
6.		（　　）	（　　位）			
7.		（　　）	（　　位）			
8.		（　　）	（　　位）			
9.		（　　）	（　　位）			

第４組

	氏　名	府　県	順位			
1.		（　　）	（　　位）	総タイム	分	秒
2.		（　　）	（　　位）	上がりタイム		秒
3.		（　　）	（　　位）	決まり手		
4.		（　　）	（　　位）			
5.		（　　）	（　　位）			
6.		（　　）	（　　位）			
7.		（　　）	（　　位）			
8.		（　　）	（　　位）			
9.		（　　）	（　　位）			

第５組

	氏　名	府　県	順位			
1.		（　　）	（　　位）	総タイム	分	秒
2.		（　　）	（　　位）	上がりタイム		秒
3.		（　　）	（　　位）	決まり手		
4.		（　　）	（　　位）			
5.		（　　）	（　　位）			
6.		（　　）	（　　位）			
7.		（　　）	（　　位）			
8.		（　　）	（　　位）			
9.		（　　）	（　　位）			

3　アザレアカップ 予選 (1st) Azalea Cup, Qualifying（2 レース）10:35 ～ 10:45

第１組

	氏　名	順　位			
1.		（　　位）	総タイム	分	秒
2.		（　　位）	上がりタイム		秒
3.		（　　位）	決まり手		
4.		（　　位）			
5.		（　　位）			
6.		（　　位）			
7.		（　　位）			

第２組

	氏　名	順　位			
1.		（　　位）	総タイム	分	秒
2.		（　　位）	上がりタイム		秒
3.		（　　位）	決まり手		
4.		（　　位）			
5.		（　　位）			
6.		（　　位）			
7.		（　　位）			

4　4kmチームパーシュート 決勝 Team Pursuit, Final（4 レース）10:45 ～ 11:15

第 1 組

（白）　地　区　（　　）
チーム　（　　）
（　　）
（　　）
（　　位）　分　秒

（赤）　地　区　（　　）
チーム　（　　）
（　　）
（　　）
（　　位）　分　秒

第 2 組

（白）　地　区　（　　）
チーム　（　　）
（　　）
（　　）
（　　位）　分　秒

（赤）　地　区　（　　）
チーム　（　　）
（　　）
（　　）
（　　位）　分　秒

第 3 組

（白）　地　区　（　　）
チーム　（　　）
（　　）
（　　）
（　　位）　分　秒

（赤）　地　区　（　　）
チーム　（　　）
（　　）
（　　）
（　　位）　分　秒

第 4 組

（白）　地　区　チーム　（　　）（　　）（　　）（　　）　（　位）　分　秒

（赤）　地　区　チーム　（　　）（　　）（　　）（　　）　（　位）　分　秒

5　スプリント 1/8 決勝 Sprint, 1/8 Final（8 レース）　11:15 ～ 11:45

第 1 組　（白）（　　）
（赤）（　　）
（1 位）（　　）　秒
（2 位）（　　）

第 2 組　（白）（　　）
（赤）（　　）
（1 位）（　　）　秒
（2 位）（　　）

第 3 組　（白）（　　）
（赤）（　　）
（1 位）（　　）　秒
（2 位）（　　）

第 4 組　（白）（　　）
（赤）（　　）
（1 位）（　　）　秒
（2 位）（　　）

第 5 組　（白）（　　）
（赤）（　　）
（1 位）（　　）　秒
（2 位）（　　）

第 6 組　（白）（　　）
（赤）（　　）
（1 位）（　　）　秒
（2 位）（　　）

第 7 組　（白）（　　）
（赤）（　　）
（1 位）（　　）　秒
（2 位）（　　）

第 8 組　（白）（　　）
（赤）（　　）
（1 位）（　　）　秒
（2 位）（　　）

ー開会式・日競選表彰式ー Opening Ceremony 11:45～12:10

ーファンサービスー Fan Service 12:10～12:40

6 エリミネイションレース 決勝 Elimination Race, Final（1 レース）12:40～13:10

番号	色別	氏名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	順位
1	白	（　　）																										位
2	白	（　　）																										位
3	白	（　　）																										位
4	黄	（　　）																										位
5	黄	（　　）																										位
6	黄	（　　）																										位
7	橙	（　　）																										位
8	橙	（　　）																										位
9	橙	（　　）																										位
10	緑	（　　）																										位
11	緑	（　　）																										位
12	緑	（　　）																										位
13	赤	（　　）																										位
14	赤	（　　）																										位
15	赤	（　　）																										位
16	青	（　　）																										位
17	青	（　　）																										位
18	青	（　　）																										位
19	紫	（　　）																										位
20	紫	（　　）																										位
21	紫	（　　）																										位
22	黒	（　　）																										位
23	黒	（　　）																										位
24	黒	（　　）																										位
25	桃	（　　）																										位

7 スプリント 1/4 決勝 Sprint, 1/4 Final（4 レース） 13:10 ～ 13:25

各組第 1 位者は 1/2 決勝へ進出

第 1 組 （白） （　　）
（赤） （　　）
（1 位） （　　） 秒
（2 位） （　　）

第 2 組 （白） （　　）
（赤） （　　）
（1 位） （　　） 秒
（2 位） （　　）

第 3 組 （白） （　　）
（赤） （　　）
（1 位） （　　） 秒
（2 位） （　　）

第 4 組 （白） （　　）
（赤） （　　）
（1 位） （　　） 秒
（2 位） （　　）

8　1km タイムトライアル 決勝 1km Time Trial, Final（16 レース）13:25 ～ 14:25

	氏　名	府　県	タイム	順 位
1.		（　　）	分　秒	（　位）
2.		（　　）	分　秒	（　位）
3.		（　　）	分　秒	（　位）
4.		（　　）	分　秒	（　位）
5.		（　　）	分　秒	（　位）
6.		（　　）	分　秒	（　位）
7.		（　　）	分　秒	（　位）
8.		（　　）	分　秒	（　位）
9.		（　　）	分　秒	（　位）
10.		（　　）	分　秒	（　位）
11.		（　　）	分　秒	（　位）
12.		（　　）	分　秒	（　位）
13.		（　　）	分　秒	（　位）
14.		（　　）	分　秒	（　位）
15.		（　　）	分　秒	（　位）
16.		（　　）	分　秒	（　位）

9 男子ケイリン 1/2 決勝 Keirin, 1/2 Final（3 レース） 14:25 ～ 14:40

各組第３位までが決勝へ進出

第１組

	氏　名	府　県	順位	
1.		（　　）	（　　位）	総タイム　　分　　秒
2.		（　　）	（　　位）	上がりタイム　　秒
3.		（　　）	（　　位）	決まり手
4.		（　　）	（　　位）	
5.		（　　）	（　　位）	
6.		（　　）	（　　位）	
7.		（　　）	（　　位）	
8.		（　　）	（　　位）	
9.		（　　）	（　　位）	

第２組

	氏　名	府　県	順位	
1.		（　　）	（　　位）	総タイム　　分　　秒
2.		（　　）	（　　位）	上がりタイム　　秒
3.		（　　）	（　　位）	決まり手
4.		（　　）	（　　位）	
5.		（　　）	（　　位）	
6.		（　　）	（　　位）	
7.		（　　）	（　　位）	
8.		（　　）	（　　位）	
9.		（　　）	（　　位）	

第３組

	氏　名	府　県	順位			
1.		（　　）	（　　位）	総タイム	分	秒
2.		（　　）	（　　位）	上がりタイム		秒
3.		（　　）	（　　位）	決まり手		
4.		（　　）	（　　位）			
5.		（　　）	（　　位）			
6.		（　　）	（　　位）			
7.		（　　）	（　　位）			
8.		（　　）	（　　位）			
9.		（　　）	（　　位）			

10 アザレアカップ 予選 (2nd) Azalea Cup, Qualifying（2 レース）14:40 ～ 14:50

第１組

	氏　名	順　位			
1.		（　　位）	総タイム	分	秒
2.		（　　位）	上がりタイム		秒
3.		（　　位）	決まり手		
4.		（　　位）			
5.		（　　位）			
6.		（　　位）			
7.		（　　位）			

第２組

	氏　名	順　位			
1.		（　　位）	総タイム	分	秒
2.		（　　位）	上がりタイム		秒
3.		（　　位）	決まり手		
4.		（　　位）			
5.		（　　位）			
6.		（　　位）			
7.		（　　位）			

ー 表 彰 式 ー Victory Ceremony

14:50 ～ 15:05

（4km チームパーシュート・エリミネイション・1km タイムトライアル）

11 スプリント 1/2 決勝 1 回戦 Sprint, 1/2 Final, 1st Race（2 レース）15:05 ～ 15:15

各組勝者（2 本先取）は決勝へ、敗者は 3・4 位決定戦に進出

第 1 組　（白）　（　　）
　　（赤）　（　　）
（1 位）（　　）　　秒
（2 位）（　　）

第 2 組　（白）　（　　）
　　（赤）　（　　）
（1 位）（　　）　　秒
（2 位）（　　）

12 チームスプリント 決勝 Team Sprint, Final（8 レース） 15:15 ～ 15:55

第 1 組
地　区
チーム
（　　）
（　　）
（　　）
（　　位）　　分　　秒

第 2 組
地　区
チーム
（　　）
（　　）
（　　）
（　　位）　　分　　秒

第 3 組
地　区
チーム
（　　）
（　　）
（　　）
（　　位）　　分　　秒

第 4 組
地　区
（　　）
（　　）
（　　位）　　分　　秒

第５組　地　区 チーム　（　　）（　　）（　　）　（　　位）　分　秒

第６組　地　区 チーム　（　　）（　　）（　　）　（　　位）　分　秒

第７組　地　区 チーム　（　　）（　　）（　　）　（　　位）　分　秒

第８組　地　区 チーム　（　　）（　　）（　　）　（　　位）　分　秒

13 スプリント 1/2 決勝２回戦 Sprint, 1/2 Final, 2nd Race（2 レース）15:55 ～ 16:05

各組勝者（2 本先取）は決勝へ、敗者は３・４位決定戦に進出

第１組　（白）　（　　）
（赤）　（　　）
（1 位）（　　）　秒
（2 位）（　　）

第２組　（白）　（　　）
（赤）　（　　）
（1 位）（　　）　秒
（2 位）（　　）

14 4km 個人パーシュート 決勝 Individual Pursuit, Final（5 レース）16:05 ～ 16:40

第１組　（白）　（　　）
（赤）　（　　）
（1 位）（　　）　分　秒
（2 位）（　　）

第２組　（白）　（　　）
（赤）　（　　）
（1 位）（　　）　分　秒
（2 位）（　　）

第３組　（白）　（　　）
　　（赤）　（　　）
（1 位）（　　）　分　秒
（2 位）（　　）

第４組　（白）　（　　）
　　（赤）　（　　）
（1 位）（　　）　分　秒
（2 位）（　　）

第５組　（白）　（　　）
　　（赤）　（　　）
（1 位）（　　）　分　秒
（2 位）（　　）

15 スプリント 1/2 決勝３回戦 Sprint, 1/2 Final, Decider（2 レース）16:40 ～ 16:50

各組勝者（2 本先取）は決勝へ、敗者は３・４位決定戦に進出

第１組　（白）　（　　）
　　（赤）　（　　）
（1 位）（　　）　秒
（2 位）（　　）

第２組　（白）　（　　）
　　（赤）　（　　）
（1 位）（　　）　秒
（2 位）（　　）

ー　表　彰　式　ー Victory Ceremony

16:50 ～ 17:00

（チームスプリント・4km 個人パーシュート）

16 スプリント 決勝１回戦 Sprint, Final, 1st Race（1 レース）17:00 ～ 17:05

１回戦　（白）　（　　）
　　（赤）　（　　）
（1 位）（　　）　秒
（2 位）（　　）

17 スプリント 3･4 位決定戦 Sprint, Final for Bronze（1 レース）17:05 ～ 17:10

（白）　（　　）

（赤）　（　　）

（1 位）（　　）　　秒

（2 位）（　　）

18 アザレアカップ 決勝 Azalea Cup, Final（1 レース）　17:10 ～ 17:15

	氏　名	順　位
1.		（　　位）
2.		（　　位）
3.		（　　位）
4.		（　　位）
5.		（　　位）
6.		（　　位）
7.		（　　位）

総タイム　　分　　秒

上がりタイム　　秒

決まり手

19 スプリント 決勝 2 回戦 Sprint, Final, 2nd Race（1 レース）17:15 ～ 17:20

2 回戦　（白）　（　　）

（赤）　（　　）

（1 位）（　　）　　秒

（2 位）（　　）

ー 表 彰 式 ー Victory Ceremony

17:20 ～ 17:30

（アザレアカップ）

20 男子ケイリン 決勝 Keirin, Final（1 レース） 17:30 ～ 17:40

	氏　名	府　県	順 位	
1.		（　　）	（　　位）	総タイム　　分　　秒
2.		（　　）	（　　位）	上がりタイム　　秒
3.		（　　）	（　　位）	決まり手
4.		（　　）	（　　位）	
5.		（　　）	（　　位）	
6.		（　　）	（　　位）	
7.		（　　）	（　　位）	
8.		（　　）	（　　位）	
9.		（　　）	（　　位）	

21 スプリント 決勝 3 回戦 Sprint, Final, Decider（1 レース） 17:40 ～ 17:45

3 回戦　（白）　（　　）

（赤）　（　　）

（1 位）（　　）　　秒

（2 位）（　　）

ー 表 彰 式 ー Victory Ceremony

17:45 ～ 17:55

（スプリント・男子ケイリン）

ー 閉 会 式 ー Closing Ceremony

17:55 ～ 18:00

競技プログラムは変更になる場合があります

ＢＭＸ競技

開催日程未定

【賞品目録】

－トラック競技－

	第1位	第2位	第3位
スプリント	経済産業大臣賞 （公財）ＪＫＡ会長賞 （公社）全国競輪施行者協議会会長賞 （一財）全国競輪選手共済会会長賞 茨城県知事賞 （一社）日本競輪選手会理事長賞 日本プロサイクリスト協会会長賞	函館市長賞 （一社）日本競輪選手会理事長賞 日本プロサイクリスト協会会長賞	（一財）日本自転車普及協会会長賞 （一社）日本競輪選手会理事長賞 日本プロサイクリスト協会会長賞
ケイリン	経済産業大臣賞 （公財）ＪＫＡ会長賞 （一財）全国競輪選手共済会会長賞 中日新聞社社長賞 宇都宮市長賞 （一社）日本競輪選手会理事長賞 日本プロサイクリスト協会会長賞	防府市長賞 （一社）日本競輪選手会理事長賞 日本プロサイクリスト協会会長賞	（一財）自転車産業振興協会会長賞 （一社）日本競輪選手会理事長賞 日本プロサイクリスト協会会長賞
4km個人パーシュート	（公財）ＪＫＡ会長賞 （一財）全国競輪選手共済会会長賞 前橋市長賞 福井市長賞 （株）京王閣社長賞 （一社）日本競輪選手会理事長賞 日本プロサイクリスト協会会長賞	埼玉県知事賞 （一社）日本競輪選手会理事長賞 日本プロサイクリスト協会会長賞	日本名輪会会長賞 （一社）日本競輪選手会理事長賞 日本プロサイクリスト協会会長賞
チームスプリント	（公財）ＪＫＡ会長賞 （公社）全国競輪施行者協議会会長賞 （一財）全国競輪選手共済会会長賞 岸和田市長賞 名古屋競輪組合管理者賞 （一社）日本競輪選手会理事長賞 日本プロサイクリスト協会会長賞	伊東市長賞 （一社）日本競輪選手会理事長賞 日本プロサイクリスト協会会長賞	（一財）日本車両検査協会理事長賞 （一社）日本競輪選手会理事長賞 日本プロサイクリスト協会会長賞

	第１位	第２位	第３位
1km タイムトライアル	（公財）ＪＫＡ会長賞 （一財）全国競輪選手共済会会長賞 中日新聞社社長賞 立川市長賞 いわき市市長賞 （一社）日本競輪選手会理事長賞 日本プロサイクリスト協会会長賞	南関東競輪連絡協議会会長賞 （一社）日本競輪選手会理事長賞 日本プロサイクリスト協会会長賞	（一社）自転車協会理事長賞 （一社）日本競輪選手会理事長賞 日本プロサイクリスト協会会長賞
4km チームパーシュート	（公財）ＪＫＡ会長賞 （一財）全国競輪選手共済会会長賞 東京都十一市競輪事業組合管理者賞 北九州市 松戸公産㈱社長賞 （一社）日本競輪選手会理事長賞 日本プロサイクリスト協会会長賞	（一社）日本競輪選手会理事長賞 日本プロサイクリスト協会会長賞	日本自転車軽自動車商協同組合代表理事賞 （一社）日本競輪選手会理事長賞 日本プロサイクリスト協会会長賞
エリミネイションレース	（公財）ＪＫＡ会長賞 （一財）全国競輪選手共済会会長賞 南関東競輪連絡協議会会長賞 弥彦村長賞 三生興産㈱社長賞 （一社）日本競輪選手会理事長賞 日本プロサイクリスト協会会長賞	（一社）日本競輪選手会理事長賞 日本プロサイクリスト協会会長賞	（公財）車両競技公益資金記念財団理事長賞 （一社）日本競輪選手会理事長賞 日本プロサイクリスト協会会長賞

－BMX 競技－

	第１位	第２位	第３位
BMX	（公財）ＪＫＡ会長賞 （一財）全国競輪選手共済会会長賞 中日新聞社社長賞 高松市長賞 （株）桝田酒造店社長賞 （一社）日本競輪選手会理事長賞 日本プロサイクリスト協会会長賞	（一社）日本競輪選手会理事長賞 日本プロサイクリスト協会会長賞	（株）日刊プロスポーツ新聞社社長賞 （一社）日本競輪選手会理事長賞 日本プロサイクリスト協会会長賞

寄贈御芳名（順不同）

大　塚　製　薬　（株）

グリーングループ（株）

（株）プラム・サービス

MEMO

わたしも、
東京新聞。
東京新聞
ものづくりの技 東京で輝け
探訪 都の企業
©中日新聞東京本社2013
（日刊）
中日新聞東京本社
東京新聞ためしよみ
1週間無料
まずは、ためしよみ。一週間無料です。
東京ほっと で検索
紙面について
電話
03-6910-2201
（土日祝日除く 9:30〜17:30）
FAX
03-3595-6935
東京新聞ホームページ
TOKYO Web
www.tokyo-np.co.jp
本紙記者がツイッターでつぶやいています
東京新聞政治部
東京新聞けいざいデスク
東京新聞写真部
東京新聞鉄道クラブ
東京新聞文化部
東京ちゅん太
東京新聞ためしよみ
1週間無料
東京ほっと
検索
0120-026-999

ALL JAPAN
JPCA